

(仮称)とやまくすりミュージアム整備・運営事業 仮契約書(案)

富山市(以下「市」という。)と【●●●●】(以下「事業者」という。)は、各々対等な立場における合意に基づいて、本契約書の条件のほか、富山市契約規則(平成 17 年規則第 37 号)及び(仮称)とやまくすりミュージアム整備・運営事業 事業契約約款(以下「約款」という。)の定めるところにより、公正な契約を締結するものとする。

(総則)

第1条 市及び事業者双方は、信義を重んじ、誠実にこの契約を履行しなければならない。

(契約の大要)

第2条 この契約の大要は、次のとおりとする。

- 事業名 (仮称)とやまくすりミュージアム整備・運営事業
- 事業場所 富山県富山市牛島町 18 番 7 号
- 事業期間 契約締結日から令和 20 年 3 月 31 日まで
- 契約代金額 金【○○○○○○○○】円
(うち、取引に係る消費税及び地方消費税相当額【○○○○】円)
ただし、上記金額に、約款に定める方法による物価変動による増減額並びに当該額に係る消費税及び地方消費税相当額による増減額を加算した額とし、その内訳金額は約款に定めるところによる。
- 支払い方法 約款第 65 条 の定めるところによる。
- 契約保証金 約款第 35 条 及び第 64 条 に定めるところによる。

(仮契約の効力)

第3条 この契約は、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(平成11年法律第117号)第12条の規定により、富山市議会の議決を得たとき、本契約とする。

この契約の締結を証するため、本書2通を作成し、市及び事業者記名押印の上各々1部を保有する。

令和【 】年【 】月【 】日

市

富山県富山市新桜町 7 番 38 号

富山市長 藤井 裕久 印

事業者

【 】共同企業体

代表企業

(住所)

(事業者名)

(代表者名) 印

構成企業

(住所)

(事業者名)

(代表者名) 印

構成企業

(住所)

(事業者名)

(代表者名) 印

構成企業

(住所)

(事業者名)

(代表者名) 印

(仮称)とやまくすりミュージアム整備・運営事業
事業契約約款(案)

目次

第1章 用語の定義	1
第2章 総則	1
第3章 本事業の概要	2
第4章 本施設の設計	3
第5章 改修・工事監理	5
第1節 総則	5
第2節 工期の変更等	7
第3節 本施設の完成等	8
第4節 損害の発生等	8
第5節 設計及び改修・工事監理業務の契約保証	9
第6節 本施設の引渡し等	10
第6章 開業準備業務	11
第1節 総則	11
第2節 開業準備業務に対する市によるモニタリング	11
第3節 損害の発生等	11
第7章 本施設の維持管理及び運営業務	13
第1節 総則	13
第2節 維持管理及び運営業務のモニタリング	16
第3節 業務の変更等	17
第4節 損害の発生等	17
第5節 維持管理及び運営業務の契約保証	18
第8章 サービスの対価の支払い	19
第9章 事業者の経営状況の報告等	20
第10章 自主事業	21
第11章 契約期間及び契約の終了	23
第12章 法令変更	27
第13章 公租公課	27
第14章 不可抗力	28
第15章 関係者協議会	29
第16章 その他	30
別紙1 用語の定義(第1章 関係)	32
別紙2 モニタリング及びペナルティの考え方 (第15条、第26条、第43条、第59条、第67条、第83条 関係)	33
別紙3 改修、維持管理及び運営業務期間中の保険(第34条、第45条、第63条 関係)	36
別紙4 サービスの対価の支払方法(第39条、第65条 関係)	37
別紙5 サービスの対価の改定方法(第66条 関係)	44

第1章 用語の定義

(用語の定義)

第1条 (仮称)とやまくすりミュージアム整備・運営事業事業契約約款における用語の定義は、本文中において特に明示されるものを除き、別紙1に記載する「用語の定義」において定めるところによる。

第2章 総則

(総則)

第2条 本契約は、市及び事業者が相互に協力し、本事業を円滑に実施するために必要な事項を定めることを目的とする。

2 市及び事業者は、事業契約書等に基づき、募集要項等、要求水準書等、事業者提案及び設計図書等に従い、日本国の法令等を遵守し、本契約を履行しなければならない。

3 市は、本契約に基づくすべての行為を代表企業に対して行えば足りるものとし、市が当該代表企業に対して行った本契約に基づくすべての行為は、構成企業のすべてに対して行ったものとみなす。

(公共性及び事業の趣旨の尊重)

第3条 事業者は、本事業が公共施設の整備事業として、公共性を有することを十分理解し、本事業の実施に当たり、その趣旨を尊重するものとする。

2 市及び事業者は、本事業の目的を十分理解し、本事業の実施に当たり、その趣旨を尊重するものとする。

(契約関係書類の適用関係)

第4条 契約関係書類の記載内容に矛盾又は相違がある場合は、事業契約書等、要求水準書等、募集要項等、事業者提案及び設計図書等の順に優先して適用されるものとする。

2 契約関係書類に疑義が生じた場合は、市及び事業者の間において協議の上、その記載内容に関する事項を決定するものとする。

3 事業者提案及び要求水準書等の内容に差異がある場合は、事業者提案に記載された提案内容が要求水準書等に記載された要求水準を上回るときに限り、事業者提案が優先して適用されるものとする。

(代表企業及び構成企業の責務)

第5条 代表企業は、各構成企業を統括し、本事業を構成する業務のうち各構成企業が担当する業務につき、法令及び契約関係書類に従って誠実に遂行させる義務を負うものとする。

2 代表企業は、各構成企業のいずれかが、本事業を構成する業務のうちその担当する業務を履行することができなくなった場合には、事前に市の書面による承諾を得たうえで、自己の費用と責任により、業務を履行することが困難になった構成企業に代えて、入札説明書等に規定する要件を満たす新たな企業を構成企業として追加し、その業務を行わせる等し、当該業務の履行の確保の措置をとるものとする。

3 各構成企業は、本契約において事業者の義務又は責任と規定されているものについて、本契約その他において特に定める場合を除き、市に対して、代表企業及び他の構成企業と連帯して責任を負うものとする。

第3章 本事業の概要

(本事業の概要・事業範囲)

第6条 本事業は、要求水準書に示すとおり、(仮称)とやまくすりミュージアム(以下「本施設」という。)を対象とする設計業務、改修・工事監理業務、開業準備業務、維持管理業務、運営業務及びこれらに付随し関連する一切の業務により構成する。

2 本施設は、本契約に定めるところにより、事業者から市に引き渡すものとする。

3 本事業は、契約関係書類に従い、事業者が適正かつ確実に実施するものとし、市は事業者による本事業の適正かつ確実な実施を確保するための措置を執るものとする。

4 市は、本契約の定めに従い、事業者に対し、事業者が事業期間にわたり実施する業務に関して、事業者から提供されるサービスの対価に当該サービスの対価に課される消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という。)を加えた額を支払うものとする。

(本事業の事業方式)

第7条 本施設は、事業者により設計、改修された後、引渡しと同時に、市及び事業者の間で別途合意されない限り、その所有権が市に帰属し、以後、市が所有する。なお、本施設は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第238条第4項に規定する行政財産として位置付けられる。

2 事業者は、本契約に定めるところに従い、維持管理期間及び運営期間にわたり、本施設の維持管理及び運営業務を遂行するものとする。

3 事業者は、工事着手日から、本施設の引渡し日までの期間、改修・工事監理業務の遂行に必要な範囲で、市が賃貸借する事業予定範囲を無償で使用することができる。この場合において、事業者は、改修工事期間中の事業予定範囲の管理を善良な管理者の注意義務をもって行うものとする。

4 事業者は、維持管理期間及び運営期間中、維持管理及び運営業務の遂行に必要な範囲で、市が賃貸借する事業予定範囲及び本施設を無償で使用することができる。この場合において、事業者は、維持管理期間及び運営期間中の事業予定範囲の管理を善良な管理者の注意義務をもって行うものとする。

5 市は、地方自治法第244条の2第6項の規定による議会の議決があったとき、事業者を指定管理者に指定し、事業者に本施設の管理を行わせる。

(事業者の資金調達)

第8条 事業者は、本契約に別段の定めがある場合を除き、本事業の実施に必要な一切の費用を負担し、本事業を実施するに当たり必要な資金調達を全て自己の責任において行わなければならない。

(事業期間)

第9条 本事業の事業期間等は、次のとおりとする。

事業期間	事業契約締結日～令和20年3月末日
設計・改修工事期間	事業契約締結日～令和10年7月末日
本施設引渡し日	令和10年7月末日まで
開業準備期間	事業者が提案した日～運用開始日まで
運用開始日	令和10年9月9日まで
維持管理期間	本施設引渡し日～令和20年3月末日
運営期間	運用開始日～令和20年3月末日

(法令等の遵守)

第10条 事業者は、本事業を実施するに当たり、関連する法令、条例等を遵守しなければならない。

第4章 本施設の設計

(本施設の設計)

第11条 事業者は、契約関係書類に基づき自己の費用及び責任で本施設を設計しなければならない。

(設計の第三者への委託)

第12条 事業者は、市に対し第三者の名称その他の情報を通知し、事前の市の書面による承諾を得た上で、本施設の設計の一部を当該第三者に委託することができる。ただし、事業者は、本施設の設計の全部又は主たる部分を第三者に委託することはできない。

2 事業者は、第1項の規定に基づく委託に係る受託者の使用について、全ての責任を負わなければならない。

3 第1項の規定に基づく委託に係る受託者の責めに帰すべき事由は、事業者の責めに帰すべき事由とみなす。

(設計に伴う各種調査)

第13条 事業者は、自己の費用負担により本施設の設計のために必要となる事前調査を実施した上で設計を実施しなければならない。

2 事業者は、前項の調査を実施する場合には、調査に着手する前に調査計画書を作成し、市に提出しなければならない。

3 事業者は、市に対し第三者の名称その他の情報を通知し、事前の市への書面による承諾を得た上で、第1項の調査業務の全部又は一部を当該第三者に委託することができる。

4 事業者は、前項の規定に基づく委託に係る受託者の使用について、全ての責任を負わなければならない。

5 第3項の規定に基づく委託に係る受託者の責めに帰すべき事由は、事業者の責めに帰すべき事由とみなす。

6 事業者は、調査業務及び調査結果に係る一切の責任及び費用を負担しなければならない。

7 事業者の事前調査の誤り又は過失に起因して市又は事業者に生じた損害、損失又は費用は、事業者が負担するものとする。

(設計に係る許認可及び届出)

第14条 事業者は、本施設の設計に関する本契約上の義務を履行するために必要な一切の許認可の取得及び届出を自己の責任及び費用において行わなければならない。

2 市は、事業者からの要請があった場合、事業者の許認可の取得及び届出のために必要な協力を行うものとする。

(設計に対する市のモニタリング)

第15条 事業者は、本施設の設計の進捗状況に関して、月に1回市に対して報告を行うものとする。

2 市は、適正かつ確実な整備を確保するため、別紙2に記載する「モニタリング及びペナルティの考え方」に基づき、モニタリングを実施する。市は、随時、本施設の設計図書等の閲覧等の確認及び業務実施状況の報告を要求することができるものとし、事業者は、市からのその要求に対し最大限協力するものとする。

(設計の変更)

第16条 市は、必要があると認める場合、事業者に対して書面により設計変更を要求することができるものとする。

2 事業者は、当該設計変更要求を受領した場合、速やかにその内容を検討し、市に対し検討結果を通知しなければならない。

3 事業者は、市からの設計変更要求の内容に疑義がある場合、市に対して協議を申し入れることができるものとする。

4 事業者は、市が提示した要求水準書等の内容の変更を伴う設計変更は行うことができないものとする。ただし、特に合理的な理由があり、かつ、事前の市の書面による承諾がある場合は、この限りでない。

5 前4項の場合の設計変更の費用及び変更による追加的費用は、当該設計変更が、市が提供した情報又は資料の誤り若しくは市の提示条件又は指示の不備・変更による場合等、市の責めに帰すべき事由に基づく場合には、市が負担し、事業者の責めに帰すべき事由に基づく場合には、事業者が負担する。ただし、当該設計変更が不可抗力又は法令変更に基づく場合は、市が負担する。

6 設計変更により本施設の設計及び改修・工事監理業務に係る費用が減少する場合には、市及び事業者は、協議により合理的な範囲内で当該費用の減少分をサービスの対価から減額するものとする。

7 市が第1項に基づき設計変更を要求したこと又は第4項の書面による承諾をしたことのいずれかを理由としても、事業者の責任は、免除又は軽減されるものではなく、かつ、市が、設計及び改修・工事監理業務について、責任を負担するものではない。

(設計図書等についての責任)

第17条 事業者は、設計変更がなされたか否かを問わず、設計図書等の瑕疵等により生じた前条に規定する以外の増加費用及び損害賠償について責任を負うものとする。ただし、市の責めに帰すべき事由による場合及び不可抗力又は法令変更による場合は、市の負担とする。

2 前条及び前項により市が負担すべき増加費用等の支払時期及び支払方法は、当該費用等の金額の確定後に予算措置等必要な手続を経ることを前提として、市及び事業者の協議により決定するものとする。

(設計の完了)

第18条 事業者は、本施設の設計の完了後、速やかに設計図書等を市に提出しなければならない。また、市は、必要があると認める場合、事業者に説明を求められることができるものとし、事業者は、市からのその要求に対し最大限協力するものとする。

2 市は、前項に基づき提出された設計図書等について、他の契約関係書類との間に不一致又は矛盾があると認めるときは、速やかに事業者に通知するものとする。

3 事業者は、前項の通知を受領した場合、自己の費用で速やかに当該不一致又は矛盾を是正するための措置を執り、市の確認を得なければならない。ただし、市の責めに帰すべき事由、法令変更又は不可抗力に起因する場合は、市の負担とする。また、事業者は、前項の通知の内容について疑義がある場合、市に対して協議を申し入れることができる。

4 市が第1項に基づき設計図書等を受領したこと、第2項の通知をしないこと又は前項の確認をしたことの内いずれを理由としても、事業者の責任は、免除又は軽減されるものではなく、かつ、市が、設計及び改修・工事監理業務について、責任を負担するものではない。

第5章 改修・工事監理

第1節 総則

(改修・工事監理)

第19条 事業者は、契約関係書類に従い、改修・工事監理業務を行わなければならない。

- 2 施工方法その他本施設の完成のために必要な一切の手段は、事業者が、自己の責任で決定するものとする。
- 3 事業者は、市から本施設の改修工事に係る着手の許可通知を受けた後、遅滞なく改修工事に着手しなければならない。

(改修の第三者への発注)

第20条 事業者は、事前の市の書面による承諾を得た上で、改修業務の一部を第三者に請け負わせることができる。この場合において、事業者は、市に対し当該第三者(以下「下請負人」という。)の名称その他の情報を事前に通知しなければならない。ただし、事業者は、本施設の建設業務の全部又は主たる部分を第三者に請け負わせることはできない。

- 2 事業者は、前項の規定に基づく請負に係る下請負人の使用について、全ての責任を負わなければならない。
- 3 第1項の規定に基づく請負に係る下請負人の責めに帰すべき事由は、事業者の責めに帰すべき事由とみなす。

(工事監理者)

第21条 事業者は、市に対し第三者の名称その他の情報を通知し、事前の市の書面による承諾を得た上で、工事監理業務の一部を当該第三者に委託することができる。ただし、事業者は、本施設の工事監理業務の全部又は主たる部分を第三者に委託することはできない。

- 2 事業者は、前項の規定に基づく委託に係る受託者の使用について、全ての責任を負わなければならない。
- 3 第1項の規定に基づく委託に係る受託者の責めに帰すべき事由は、事業者の責めに帰すべき事由とみなす。
- 4 事業者は、適切な工事監理者を設置し、氏名その他の必要な事項を書面により市に提出するとともに、要求水準書等に従って工事監理計画書を市に提出しなければならない。
- 5 事業者は、工事監理者に契約関係書類に基づく適切な工事監理を行わせなければならない。
- 6 市は、事業者に対し、随時、改修・工事監理業務についての報告を要求することができる。市が当該報告を要求したときは、事業者は、工事監理者に、市に対する施工の事前説明及び事後報告並びに現場での施工状況の確認等報告を行わせるものとする。
- 7 事業者は、要求水準書等に従って、改修・工事監理業務期間中、毎月5営業日目までに当該月の前月の業務に係る工事進捗状況報告書及び工事監理報告書を市に対して提出しなければならない。ただし、当該日が、富山市の休日を定める条例(平成17年富山市条例第2号)に規定する休日(以下「休日」という。)の場合には、その翌日以後で休日に当たらない最初の日とする。

(改修に伴う各種調査)

第22条 事業者は、自己の費用負担により本施設の改修工事のために必要となる各種調査を実施した上で改修工事を実施しなければならない。

- 2 事業者は、前項の各種調査を実施する場合には、調査に着手する前に調査計画書を作成し、市に提出しなければならない。
- 3 事業者は、市に対し第三者の名称その他の情報を通知し、事前の市への書面による承諾を得た上で、第1項の調査業務の全部又は一部を当該第三者に委託することができる。
- 4 事業者は、前項の規定に基づく委託に係る受託者の使用について、全ての責任を負わなければならない。
- 5 第3項の規定に基づく委託に係る受託者の責めに帰すべき事由は、事業者の責めに帰すべき事由とみなす。
- 6 事業者は、調査業務及び調査結果に係る一切の責任を負担しなければならない。
- 7 事業者の各種調査の誤り又は過失に起因して市又は事業者に生じた損害、損失又は費用は、事業者が負担するものとする。

(施工計画書)

第23条 事業者は、詳細工程表を含む施工計画書を改修工事の着手前で、市及び事業者との協議により定める日までに市に提出しなければならない。事業者は、必要がある場合には、市と協議の上、当該施工計画書の内容を変更することができ、この場合においては、変更後の施工計画書を速やかに市に提出しなければならない。

- 2 市は、前項に基づき事業者が市に提出した書類が、契約関係書類との間に不一致又は矛盾があると認めた場合、速やかに事業者に書面により通知するものとする。
- 3 事業者は、前項の規定による通知を受領した場合、速やかに当該不一致又は矛盾を是正するために、当該書類を訂正する等の措置を執り、市の確認を得なければならない。事業者は、前項の通知の内容について疑義がある場合、市に対して協議を申し入れることができる。
- 4 市が第1項に基づき当該施工計画書を受領したこと、第2項の通知をしないこと又は前項の確認をしたことのいずれを理由としても、事業者の責任は、免除又は軽減されるものではなく、かつ、市が、改修・工事監理業務について、何ら責任を負担するものではない。
- 5 事業者は、工期中毎月の末日までに、翌月分に係る月間工事工程表を市に提出しなければならない。

(工事等に係る許認可及び届出)

第24条 事業者は、改修・工事監理業務に関する本契約上の義務を履行するために必要な一切の許認可の取得及び届出を自己の費用及び責任において行わなければならない。

- 2 市は、事業者からの要請があった場合、前項の許認可の取得及び届出のために必要な協力を行うものとする。
- 3 事業者は、市が行わなければならない許認可の取得及び届出のために必要な協力を行うものとする。

(改修工事等に伴う近隣対応・対策)

第25条 事業者は、自己の責任及び費用で、騒音、振動、悪臭、粉塵発生、交通渋滞その他改修工事等が近隣の生活環境に与える影響を勘案して、必要な近隣対応・対策を実施し、市に事前にその内容及び事後にその結果を報告しなければならない。

- 2 市は、事業者からの要請がある場合、事業者による近隣対応・対策に対し必要な協力を行うものとする。

(改修・工事監理業務に対する市によるモニタリング)

第26条 市は、事業者が契約関係書類に従い改修・工事監理業務を実施していることを確認するために、別紙2に記載する「モニタリング及びペナルティの考え方」に基づき、モニタリングを行う。市は、事業者に対し改修・工事監理業務に関する説明を求めることができ、かつ、改修工事等の現場において、その進捗状況を立会いの上確認することができるものとする。

2 事業者は、前項に規定する説明及び確認の実施について、市に対して最大限の協力をし、市に対して必要かつ合理的な説明及び報告を行わなければならない。

3 前2項に規定する説明等の結果、事業者による改修・工事監理業務が、契約関係書類を満たしていないものと認められる場合、市は、事業者に対してその是正を求めることができるものとする。事業者は、その要求について疑義がある場合、市に対して協議を申し入れることができるものとする。

4 市が前3項に規定する立会い又は確認等を実施したことを理由として、事業者の責任は、免除又は軽減されるものではなく、かつ、市が、改修・工事監理業務について、何ら責任を負担するものではない。

第2節 工期の変更等

(工期の変更)

第27条 市が事業者に対して工期の変更を請求した場合、市及び事業者は、協議により当該変更の可否を決定するものとする。ただし、当該協議が不調に終わった場合は、市が当該変更の可否を決定するものとし、事業者は、これに従わなければならない。

2 事業者が、不可抗力又は事業者の責めに帰すことのできない事由により、市に対して工期の変更を請求した場合は、市は、合理的な理由なく工期の変更の承認を留保し、拒絶し、又は遅延してはならず、市及び事業者は、協議により変更内容を決定するものとする。

(工期の変更による費用負担)

第28条 市は、市の責めに帰すべき事由、不可抗力又は事業者の責めに帰すことのできない事由により工期が変更され、本施設の引渡し日が予定日より遅延した場合は、当該工期の変更又は引渡し日の遅延に伴い事業者が負担した合理的な増加費用に相当する額及び当該額に係る消費税等相当額の合計額を事業者に支払うものとする。

2 事業者は、事業者の責めに帰すべき事由により工期が変更され、本施設の引渡し日が予定日より遅延した場合、当該工期の変更又は引渡し日の遅延に伴い市に発生した合理的な損害額及び当該額に係る消費税等相当額の合計額を市に支払うものとする。

(工事の一時中止)

第29条 市は、必要があると認める場合、事業者に対し改修・工事監理業務の全部又は一部を一時中止させることができるものとする。

2 市は、前項の場合において、必要があると認めるときは、工期を変更することができる。市は、事業者の責めに帰すべき事由により工期を変更した場合を除き、改修・工事監理業務の一時中止に伴い事業者が負担した合理的な増加費用に相当する額及び当該額に係る消費税等相当額の合計額を事業者に支払うものとする。

第3節 本施設の完成等

(事業者による自主完成検査)

第30条 事業者は、要求水準書等に従って自主完成検査を実施しなければならない。

2 事業者は、前項の自主完成検査の日程及び内容をその実施の7日前までに市に対して通知しなければならない。また、市は、この自主完成検査に立ち会うことができるものとする。

3 事業者は、市の立会いの有無にかかわらず、市に対して第1項の自主完成検査の結果について、その他の検査結果に関する書面の写しを添えて報告しなければならない。

(市による完成確認)

第31条 市は、本施設の引渡しに先立ち、前条に規定する事業者による自主完成検査の結果報告を受けた日から14日以内に完成確認を実施するものとする。

2 市は、事業者が前項の完成確認に合格しない場合、事業者に対し是正等の適切な措置を求めることができるものとする。事業者は、その内容について疑義がある場合、市に対して協議を申し入れることができるものとする。

(完成図書及び完成確認合格通知)

第32条 事業者は、前条の完成確認に合格したときは、完成図書を速やかに市に提出しなければならない。

2 市は、事業者が前条の完成確認に合格したときには、事業者に対し、速やかに完成確認合格通知書を交付しなければならない。

3 事業者は、市からの完成確認合格通知書の交付がなければ本施設の引渡しができないものとする。

4 市は、事業者から提出された完成図書を本施設の修繕等のために利用し、かつ、必要な改変を加えることができるものとする。

第4節 損害の発生等

(改修・工事監理業務中に第三者に及ぼした損害)

第33条 事業者が改修・工事監理業務に関し、第三者に損害を及ぼした場合、直ちに市へ報告し、当該損害のうち、事業者の責めに帰すべき事由によるものは、事業者が賠償し、自らの責任及び費用負担で対処しなければならない。

(改修工事期間中の保険)

第34条 事業者は、改修工事期間中、別紙3「改修、維持管理及び運営業務期間中の保険」のうち、改修・工事監理期間の欄に掲げる保険に加入しなければならない。

第5節 設計及び改修・工事監理業務の契約保証

(設計及び改修・工事監理業務の契約保証)

第35条 事業者は、本契約の締結と同時に、次の各号のいずれかに掲げる保証を付さなければならない。付された保証が第3号から第4号までのいずれかの場合にあっては、事業者が別途定める保証又は履行保証保険契約を締結した後、直ちにその保証証券を市に寄託しなければならない。

- (1) 契約保証金の納付
 - (2) 契約保証金に代わる担保となる有価証券等の提供(ただし、富山市契約規則(平成17年規則第37号)第26条の額面規程によるものとする。)
 - (3) 本施設の改修工事に係る債務の不履行により生ずる損害金の支払いを保証する銀行又は市が確実と認める金融機関等の保証
 - (4) 本施設の改修工事に係る債務の不履行により生ずる損害を^{てんぽ}填補する履行保証保険契約の締結(ただし、市以外の者を被保険者とする場合は、保険金請求権上に、本事業に関連する市の事業者に対する違約金支払請求権を被担保権として、市を第一順位とする質権を設定することとする。なお、係る質権設定の費用は、事業者が負担しなければならない。)
- 2 前項の保証に係る契約保証金の額は、別紙4に記載する「サービスの対価の支払方法」の「①設計及び改修・工事監理業務のサービスの対価」のうち、「ア施設費」における調査・設計費、改修費及び工事監理費に相当する金額並びに当該額に係る消費税等相当額の合計額の10分の1以上としなければならない。
- 3 第1項の規定により、事業者が同項第2号又は第3号に掲げる保証を付したときは、当該保証は契約保証金に代わる担保の提供として行われたものとし、同項第4号に掲げる保証保険契約を締結したときは、契約保証金の納付を免除するものとする。
- 4 契約金額の変更があった場合には、第1項に規定する保証の額が変更後の別紙4に記載する「サービスの対価の支払方法」の「①設計及び改修・工事監理業務のサービスの対価」のうち、「ア施設費」における調査・設計費、改修費及び工事監理費に相当する金額並びに当該額に係る消費税等相当額の合計額の10分の1に達するまで、市は、当該保証の額の増額を請求することができるものとし、事業者は、保証の額の減額を請求することができるものとする。ただし、保証の額の変更に伴う経費は事業者が負担するものとする。
- 5 契約保証金は、設計及び改修・工事監理業務の履行後、本施設の最終引渡し日以降速やかに還付するものとする。なお、利息等の付与は行わないものとする。

第6節 本施設の引渡し等

(本施設の引渡し)

第36条 事業者は、市からの完成確認合格通知書を受領したあと、速やかに本施設を市に引き渡さなければならない。

2 市及び事業者の間で別途合意されない限り、前項による引渡しにより、事業者が原始取得していた本施設の所有権を市が取得するものとし、引渡しは令和10年7月末日までに事業者未使用にて行われるものとする。

(本施設の引渡しの方法)

第37条 事業者は、市に対し、本施設に一切の制限物権が設定されていない状態で、本施設を引き渡さなければならない。

2 事業者は、市への本施設の引渡しに際して生じる一切の費用を負担しなければならない。

(引渡しの期日の変更)

第38条 市は、市の責めに帰すべき事由、不可抗力又は事業者の責めに帰すことのできない事由により、本施設の引渡し日が予定日より遅延した場合、当該引渡しの遅延に伴い事業者が負担した合理的な増加費用に相当する額及び当該額に係る消費税等相当額の合計額を事業者に支払うものとする。

2 事業者の責めに帰すべき事由により、本施設の引渡し日が予定日より遅延した場合、事業者は、当該引渡し日及び完了日の遅延に伴い市に発生した合理的な損害額及び当該額に係る消費税等相当額の合計額を市に支払うものとする。

(サービスの対価の支払い)

第39条 市は、本施設の引渡しを受け、その内容が契約関係書類に適合していることが市により確認されることを条件として、別紙4に規定するサービスの対価を支払うものとする。

(契約不適合責任)

第40条 市は、本施設が種類又は品質に関して契約の内容に適合しないもの(以下「契約不適合」という。)であるときは、事業者に対して相当の期間を定めて本施設の修補による履行の追完を請求し、又は履行の追完に代えて、若しくは履行の追完とともに損害の賠償を請求することができる。

2 前項の規定による履行の追完又は損害賠償の請求は、本施設の引渡しの日から2年以内(ただし、設備機器本体等の場合は1年以内)とする。

3 市は、前項に規定する契約不適合に係る請求が可能な期間(以下この項において「契約不適合責任期間」という。)の内に契約不適合を知り、その旨を事業者に通知した場合において、当該通知から1年以内に第1項の規定による請求をしたときは、契約不適合責任期間の内に請求をしたものとみなす。

4 前2項の規定にかかわらず、事業者が当該契約不適合を知っていたときに、その契約不適合が事業者の故意又は重大な過失によって生じた場合は、第1項の規定による請求を行うことのできる期間は10年とする。

5 市は、本施設の引渡しの際に契約不適合があることを知ったときは、第2項の規定にかかわらず、その旨を直ちに事業者に通知しなければ、当該契約不適合に関する請求等を行うことはできない。ただし、事業者がその契約不適合があることを知っていたときは、この限りでない。

第6章 開業準備業務

第1節 総則

(開業準備業務)

第41条 事業者は、本施設の運用開始日に開業できるよう、運営開始に必要な一切の届出、申請及び許認可等の手続を含め要求水準書等に従って開業準備業務を実施しなければならない。

2 事業者は、開業準備業務の実施に先立ち、実施体制、実施行程、必要な業務項目を記載した開業準備業務計画書を作成の上、業務開始の1か月前までに市に提出し、その内容について市の確認を得なければならない。

3 事業者は、運営業務責任者及び業務責任者を設置するほか、運営業務に必要となる業務担当者を配置し、市民等を対象とした開館式典及び開館イベント(以下「開館式典等」という。)の実施日までに、各業務担当者に対して業務内容や機械操作、安全管理、救急救命、接客応対等、業務上必要な事項についての教育訓練研修を実施し、運営開始後直ちに円滑な運営が実施できるようしなければならない。

4 事業者は、前3項に定めるところに従って開業準備業務を履行した後、開業準備業務報告書(実施した事業内容及び実績等、リハーサル等における実施状況、問題点その対応状況、改善方法、課題等)を作成し、総括責任者が内容を確認の上、業務終了後速やかに市に提出するものとし、当該提出をもって開業準備業務の完了とする。

5 第1項の場合において、事業者は、本項に従って行った届出、申請及び許認可等の書類の副本又は写し等を、市に速やかに提出しなければならない。

(開業準備業務の実施及び第三者への委託)

第42条 事業者は、市に対し第三者の名称その他の情報を通知し、事前の市の書面による承諾を得た上で、開業準備業務の一部を当該第三者に委託することができる。ただし、事業者は、開業準備業務の全部又は主たる部分を第三者に委託することはできない。

2 事業者は、前項の規定に基づく委託に係る受託者の使用について、全ての責任を負わなければならない。

3 第1項の規定に基づく委託に係る受託者の責めに帰すべき事由は、事業者の責めに帰すべき事由とみなす。

第2節 開業準備業務に対する市によるモニタリング

(開業準備業務に対する市によるモニタリング)

第43条 市は、本施設の開業準備業務の状況を確認し、事業者による本施設の開業準備業務が契約関係書類及び開業準備業務計画書に適合しているかを確認するために、第59条に準じ、モニタリングを実施する。ただし、事業者に発生する費用は、事業者が負担するものとする。

第3節 損害の発生等

(開業準備業務中に第三者に及ぼした損害)

第44条 事業者は、本施設の開業準備業務に関し、事業者の責めに帰すべき事由により、市又は第三者に損害を与えた場合、市又は第三者が被った損害を賠償するものとする。

(開業準備期間中の保険)

第45条 事業者は、前条に定める損害賠償に係る事業者の負担に備えるため、本施設の開業準備業務期間中、別紙3に記載する「改修、維持管理及び運営業務期間中の保険」のうち、開業準備業務期間中の第三者賠償責任保険又はこれに相当する保険に加入する等、自己の費用で適切な損害賠償保険に加入しなければならない。

2 事業者は、前項に規定する保険に係る契約書及び保険証書の写しを当該保険の契約締結後、速やかに市に提出しなければならない。

3 事業者は、第1項に係る保険金請求権について、担保権を設定してはならない。

第7章 本施設の維持管理及び運営業務

第1節 総則

(指定管理者による管理等)

第46条 事業者は、本施設の設置及び管理について定めた条例、その条例の施行規則及びその他の法令(条例を含む。)並びに本事業契約(以下、「設置管理条例等」という。)の定めに従い、指定管理者としての業務を誠実かつ適正に履行しなければならない。

2 事業者は、本施設の管理を善良な管理者の注意義務をもって行うものとする。

3 市が定める指定期間は、本施設引渡日又は運営業務における予約受付日のいずれか早い日から令和20年3月31日までとする。

4 管理の対象となる物件は、本施設とし、当該業務の細目は、要求水準書等に定めるとおりとする。

(指定管理者の指定の取消し)

第47条 事業者は、地方自治法第244条の2第11項の規定により、事業者を本施設の指定管理者とする指定の取消しがなされたときは、本施設の維持管理及び運営業務の全部で、本事業契約を履行することができないものとする。

2 前項の取消しがされたときは、本事業契約は、他に特段の手続を要せず、当該取消しの効力が生ずると同時に当然に終了するものとする。

(指定管理者の指定の停止)

第48条 事業者は、地方自治法第244条の2第11項の規定により、期間を定めて本施設の維持管理業務及び運営業務の全部又は一部の停止を命じられたときは、停止を命じられた業務に対応する範囲について、本事業契約を履行することができないものとする。この場合において、事業者は、業務を停止するに当たり、業務の引継ぎ等について市の指示に従うものとする。

2 市は、前項により事業者が停止を命じられている期間中、事業者が履行できない本事業契約上の事業者の業務について、市が自ら又は第三者に委託して行うことができるものとする。

3 事業者は、市が前項に従い本事業契約上の事業者の業務を実施した場合は、当該業務の実施により市が実際に負担した追加費用及び当該費用に係る消費税等相当額の合計額を、市に対して支払わなければならない。

4 市は、事業者が、第1項の規定により本事業契約による業務の全部又は一部を履行できない場合は、事業者が履行できない本事業契約上の事業者の業務のサービス対価を支払わないものとする。

5 前各項の規定は、別紙2に記載する「モニタリング及びペナルティの考え方」に基づき、維持管理及び運営業務に係る該当する業務のサービス対価を減額し、又は市に第3項の費用に相当する金額以上の損害が生じたときはこれを事業者に請求することを妨げるものではない。

(利用の許可及び利用料金等)

第49条 事業者は、設置管理条例等の規定に従い、本施設の利用の許可、その他指定管理者として行うことのできる事務を履行するものとする。

2 市は、設置管理条例等において、本施設の開館時間、休館日及び利用料金その他本施設の設置及び管理に関する事項並びにその他必要な事項を定めるものとする。

3 市及び事業者は、毎年度、協議の上、市と事業者が締結する本施設の指定管理業務に関する年度協定書(以下「年度協定書」という。)に、設置管理条例等に規定する範囲内で、当該年度の開館時間、休館日及び利用料金を定めるものとする。

(本施設の維持管理及び運営業務)

第50条 事業者は、本施設の引渡し日から開始し事業期間終了日に終了する維持管理期間中、及び本施設の運用開始日から開始し事業期間終了日に終了する運営期間中、契約関係書類並びに次項に規定する維持管理及び運営業務仕様書に従い、自己の費用及び責任で、本施設を所定の機能及び性能が正常に発揮される状態に維持し、利用者が本施設を安全、快適に利用できるサービスの質及び水準を保持することを目的として、本施設の維持管理及び運営業務を行わなければならない。

2 事業者は、契約関係書類に基づき、市と協議し、市の承諾を得た上で、事業者による本施設の維持管理及び運営業務の仕様を定める維持管理及び運営業務仕様書を、本施設を市へ引渡す予定日の1ヶ月前の日までに市に提出し、承諾を得なければならない。事業者は、市と協議し、市の承諾を得た上で維持管理及び運営業務仕様書の内容を変更することができるものとする。

(維持管理及び運営業務の第三者への委託)

第51条 事業者は、市に対し第三者の名称その他の情報を通知し、事前の市への書面による承諾を得た上で、本施設の維持管理及び運営業務の一部を当該第三者に委託することができる。ただし、事業者は、本施設の維持管理及び運営業務の全部又は主たる部分を第三者に委託することはできない。

2 事業者は、前項の規定に基づく委託に係る受託者の使用について、全ての責任を負わなければならない。

3 第1項の規定に基づく委託に係る受託者の責めに帰すべき事由は、事業者の責めに帰すべき事由とみなす。

(維持管理及び運営業務計画書)

第52条 事業者は、契約関係書類並びに維持管理業務仕様書及び運営業務仕様書に従い、翌事業年度の事業者による本施設の維持管理及び運営業務について、業務実施体制、業務実施工程等の維持管理及び運営業務の実施のために必要な事項を記載した維持管理及び運営業務計画書を、毎年、当該事業年度の前年度の2月末日(最初の業務実施年度に係る維持管理及び運営業務計画書については本施設を市へ引渡す予定日の1ヶ月前の日)までに市に提出し、承諾を得なければならない。

(維持管理及び運営業務に係る許認可及び届出)

第53条 事業者は、本施設の維持管理及び運営業務に関する本契約上の義務を履行するために必要な一切の許認可の取得及び届出を自己の責任及び費用において行わなければならない。

2 市は、事業者の要請があった場合、前項の事業者の許認可の取得及び届出のために必要な協力を行うものとする。

3 事業者は、市の要請があった場合、本施設の維持管理及び運営業務に関する市の許認可の取得及び届出のために必要な協力を行うものとする。

(事業者による維持管理及び運営業務実施体制の整備)

第54条 事業者は、本施設の維持管理及び運営業務開始予定日までに本施設の維持管理及び運営業務の実施のために必要な一切の準備を完了し、かつ、市に対しその旨を報告しなければならない。

2 市は、前項の規定による報告を受けたときは、事業者の業務実施体制を確認し、事業者は、その確認に協力するものとする。市は、当該確認の結果、事業者により維持管理及び運営業務仕様書並びに維持管理及び運営業務計画書に従った業務実施体制が整備されていない場合、事業者に対しその是正を求めることができるものとする。

(維持管理及び運営業務開始の遅延)

第55条 市及び事業者は、本施設の維持管理及び運営業務の開始が、業務開始予定日より遅延した場合、次の各号に掲げる区分に応じ当該各号に定めるところにより責任を負うものとする。

- (1) 市の責めに帰すべき事由による場合 遅延日数に応じて、事業者が実際に負担した合理的な追加的経費の額から事業者が出費を免れた経費の額を控除して得られる金額及び当該額に係る消費税等相当額の合計額を市が事業者に対して支払うこと。
- (2) 事業者の責めに帰すべき事由による場合 富山市契約規則第 39 条の規定により、維持管理及び運営業務期間の初年度のサービスの対価の年額について、遅延日数に応じて、契約日における政府契約の支払遅延防止等に関する法律(昭和24年法律第256号)第8条第1項の規定に基づき財務大臣が決定した率(以下「支払遅延防止法の率」という。)による金額を日割り計算した遅延損害金を事業者が市に対して支払うこと。ただし、市が被った合理的な範囲の損害のうち、遅延損害金により回復されない部分があるときは、市は、事業者に対して、当該部分について損害賠償の請求を行うことができるものとする。
- (3) 不可抗力又は法令変更による場合 遅延日数に応じて、事業者が実際に負担した合理的な追加的経費の額から事業者が出費を免れた経費の額を控除して得られる金額及び当該額に係る消費税等相当額の合計額を市が事業者に対して支払うこと。

2 市が事業者に対し維持管理及び運営業務開始に係る遅延期間につき支払うべき金額は、前項に規定する金額に限られ、別途維持管理及び運営業務のサービスの対価の支払いは行わないものとする。ただし、設計及び改修・工事監理業務のサービスの対価はこの限りではない。

(維持管理及び運営業務に伴う近隣対応及び対策)

第56条 事業者は、本施設の維持管理及び運営業務に関して必要な近隣対応及び対策を自己の費用及び責任で実施しなければならない。

2 市は、事業者からの要請がある場合、前項に規定する事業者による近隣対応及び対策に対し必要な協力を行うものとする。

(本施設の修繕)

第57条 事業者は、本施設の維持管理及び運営業務期間中、本施設の予防保全に努めるとともに、本施設の修繕を行うものとする。

- 2 事業者は、本施設の維持管理及び運営業務期間中において、事業者の判断及び費用により、本施設の修繕・更新(展示替えを含む。以下同じ。)を行うものとする。
- 3 前項の他、市の判断及び費用により、必要に応じて、事業者をして本施設の全部又は一部の展示・設備等の更新及び改良を行わせしめることができるものとする。
- 4 事業者は、必要に応じ、本条に規定する更新及び改良を完成図書に反映し、かつ、使用した設計図書等を市に提出しなければならない。

第2節 維持管理及び運営業務のモニタリング

(維持管理及び運営業務に係る業務報告書)

第58条 事業者は、契約関係書類に従って、本施設の維持管理及び運営業務期間中、毎月5営業日目までに当該月の前月の業務に係る業務報告書(第2項に規定する事故等が発生し、又は苦情、要望等があった場合の顛末書を含む。以下「通常業務報告書」という。)を市に提出しなければならない。ただし、当該日が休日の場合には、その翌日以後で休日に当たらない最初の日とする。

2 事業者は、維持管理及び運営業務期間中、維持管理及び運営業務に関して緊急の対応が必要な事故、事件等のトラブルが発生した場合、又は利用者等からの苦情、要望等があった場合には、速やかに当該事故等の内容、それに対する対応策及び当該事故等に関する状況を記載した業務報告書(以下「随時業務報告書」という。)を市に提出しなければならない。

3 事業者は、前2項の他、本施設の維持管理及び運営業務期間中、毎事業年度の維持管理及び運営業務に係る業務年報を作成し、毎事業年度の最終日から起算して5営業日目までに市に提出しなければならない。ただし、当該日が休日の場合には、その翌日以後で休日に当たらない最初の日とする。

(維持管理及び運営業務に対する市によるモニタリング)

第59条 市は、自己の費用で本施設の維持管理及び運営業務の状況を確認し、事業者による本施設の維持管理及び運営業務が契約関係書類及び維持管理及び運営業務仕様書(以下「要求サービス水準」という。)に適合しているかを確認するために、次のとおりモニタリングを実施する。ただし、事業者に発生する費用は、事業者が負担するものとする。

(1) 定期モニタリング 市が、事業者から提出される通常業務報告書及び業務年報(以下「通常業務報告書等」という。)を確認するほか、現地巡回、業務監視、事業者への説明要求等により業務遂行状況を把握し、通常業務報告書等の記載事項の事実の検証を行う。

(2) 随時モニタリング 市が必要と認めるときに事業者に提出を求める随時業務報告書を確認するほか、前号と同様の内容のモニタリングを随時行う。

2 市は、前項のモニタリングの実施の際に、事業者に事前に通知することにより、本施設の維持管理及び運営業務の状況について、説明及び立会いを要求することができるものとし、事業者は、市からのその要求に対し最大限協力するものとする。

3 市は、第1項に規定するモニタリングの結果に基づき、事業者による業務の実施状況の良否を判断し、この判断結果を通常業務報告書等又は随時業務報告書を受領した日から起算して5営業日目までに事業者に通知するものとする。

4 市は、第1項のモニタリングの結果、事業者による業務の実施状況について、本施設の全部若しくは一部が本来有すべき機能にて利用できない状況にあると認められる場合又は要求サービス水準に適合していないと認められる場合には、事業者に対し別紙2に記載する「モニタリング及びペナルティの考え方」に基づき、措置を行うことができるものとする。

第3節 業務の変更等

(維持管理及び運営業務の変更)

第60条 市及び事業者は、市が事業者に対して維持管理及び運営業務の内容の変更を請求した場合、協議により当該変更の可否を決定するものとする。この場合において、当該協議が不調に終わったときは、市が、当該変更の可否を決定するものとし、事業者は、これに従わなければならない。

2 市及び事業者は、事業者が不可抗力又は事業者の責めに帰すことのできない事由により、市に対して維持管理及び運営業務の内容の変更を請求した場合、協議により当該変更の可否を決定するものとする。この場合において、当該協議が不調に終わったときは、市が、当該変更の可否を決定するものとし、事業者は、これに従わなければならない。

3 前2項に規定する維持管理及び運営業務内容の変更により維持管理及び運営業務に係る費用が増減する場合、市及び事業者は、協議により合理的な範囲内で当該費用の増減分及び当該額に係る消費税等相当額の合計額をサービスの対価から変更することができるものとする。この場合において、当該協議が不調に終わり、市の責めに帰すべき事由による業務内容の変更等に起因して維持管理及び運営業務に係る費用が増加するときは、市は合理的な当該増加費用及び当該額に係る消費税等相当額の合計額を負担するものとし、減少するときはサービスの対価の減額は行わないものとする。

4 前項に規定する市の責めに帰すべき事由による業務内容の変更等及び当該変更に伴う費用の増減については、第93条 第1項の規定により設置する関係者協議会で協議し、決定するものとする。

(維持管理及び運営業務の一時中止)

第61条 市は、必要があると認める場合、事業者に対し維持管理及び運営業務の全部又は一部を一時中止させることができる。

2 前項の場合において、市が必要と認めるときは、維持管理及び運営業務の内容を変更することができる。市は、事業者の責めに帰すべき事由による場合を除き、維持管理及び運営業務の一時中止に伴う増加費用及び事業者が生じた損害額並びに当該額に係る消費税等相当額の合計額を負担するものとする。

第4節 損害の発生等

(維持管理及び運営業務により第三者等に及ぼした損害)

第62条 事業者は、本施設の維持管理及び運営業務に関し、事業者の責めに帰すべき事由により、市又は第三者に損害を与えた場合、市又は第三者が被った損害を賠償するものとする。

(維持管理及び運営業務に係る保険)

第63条 事業者は、前条に定める損害賠償に係る事業者の負担に備えるため、本施設の維持管理及び運営業務期間中、別紙3に記載する「改修、維持管理及び運営業務期間中の保険」のうち、維持管理及び運営業務期間中の第三者賠償責任保険又はこれに相当する保険に加入する等、自己の費用で適切な損害賠償保険に加入しなければならない。

2 第1項の規定により本施設の維持管理及び運営業務を第三者に委託する場合は、事業者が適切な損害賠償に加入、又は受託者を当該保険に加入させなければならない。

3 事業者は、前2項に規定する保険に係る契約書及び保険証書の写しを当該保険の契約締結後、速やかに市に提出しなければならない。

4 事業者は、第1項に係る保険金請求権について、担保権を設定してはならない。

第5節 維持管理及び運営業務の契約保証

(維持管理及び運営業務の契約保証)

第64条 事業者は、本施設の維持管理及び運営業務の契約保証として、維持管理及び運営期間の開始日までに、次の各号のいずれかに掲げる保証を付さなければならない。この場合において、付された保証が第3号又は第4号のいずれかのときにあつては、事業者が別途定める保証又は履行保証保険契約を締結した後若しくは維持管理及び運営業務の受託者をして別途定める保証又は履行保証保険契約を締結せしめた後、直ちにその保証証券を市に寄託しなければならない。

(1) 契約保証金の納付

(2) 契約保証金に代わる担保となる有価証券等の提供(ただし、富山市契約規則(平成17年規則第37号)第26条の額面規程によるものとする。)

(3) 本施設の維持管理及び運営業務に係る債務の不履行により生ずる損害金の支払いを保証する銀行又は市が確実と認める金融機関等の保証

(4) 本施設の維持管理及び運営業務に係る債務の不履行により生ずる損害を^{てんぽ}填補する履行保証保険契約の締結(ただし、市以外の者を被保険者とする場合は、保険金請求権上に、本事業に関連する市の事業者に対する違約金支払請求権を被担保権として、市を第一順位とする質権を設定することとする。なお、係る質権設定の費用は、事業者が負担しなければならない。)

2 前項の保証に係る契約保証金の額は、維持管理及び運営業務の各事業年度のサービスの対価の金額(消費税等相当額を含む。)の10分の1以上としなければならない。

3 第1項の規定により、事業者が同項第2号又は第3号に掲げる保証を付したときは、当該保証は契約保証金に代わる担保の提供として行われたものとし、同項第4号に掲げる保証保険契約を締結したときは、契約保証金の納付を免除するものとする。

4 市は、契約金額の変更があつた場合、第1項に規定する保証の額が変更後の維持管理及び運営業務の各事業年度のサービスの対価の金額(消費税等相当額を含む。)の10分の1に達するまで、当該保証の額の増額を請求することができるものとし、事業者は、保証の額の減額を請求することができるものとする。ただし、保証の額の変更に伴う経費は事業者が負担するものとする。

5 契約保証金は、本施設の維持管理及び運営業務の事業期間終了後速やかに還付するものとする。なお、利息等の付与は行わない。

第8章 サービスの対価の支払い

(サービスの対価の支払い)

第65条 市は、事業者が本契約に従い提供するサービスを市が購入する対価として、別紙4に記載する「サービスの対価の支払方法」に従い、事業者に対してサービスの対価を支払うものとする。

2 市によるサービスの対価の構成、支払金額、支払スケジュール及び支払方法は、別紙4に記載する「サービスの対価の支払方法」に定めるとおりとする。

(サービスの対価の変更)

第66条 サービスの対価の改定方法は、別紙5に記載する「サービスの対価の改定方法」のとおりとする。

(サービスの対価の減額)

第67条 市は、事業者が提供するサービスが、第43条及び第59条第1項に規定する本施設の開業準備業務、維持管理及び運営業務に対するモニタリングの結果、要求サービス水準に適合しない業務(以下「不適合業務」という。)として認められ、市から事業者に対して改善勧告がなされたにもかかわらず、改善のために相当な期間経過後も改善がなされなかった場合には、別紙2に記載する「モニタリング及びペナルティの考え方」に基づき、開業準備業務、維持管理及び運営業務に係る該当する業務のサービスの対価を減額することができるものとする。

(サービスの対価の返還)

第68条 市は、事業者から提出された通常業務報告書等又は市への支払請求書等に虚偽の記載があること、若しくはモニタリングに際して事業者の行う説明の重要な点において真実との不一致があること(以下「不実等」という。)が判明した場合には、当該不実等がなければ市が本来支払う必要のない開業準備業務、維持管理及び運営業務のサービスの対価の相当額について、サービスの対価の支払いを行わないものとする。

2 事業者は、前項の不実等により受領した過払いのサービスの対価の相当額又は不実等がなければ事業者が減額し得たサービスの対価の相当額に、当該不実等が行われた日からの日数に応じて、支払遅延防止法の率による金額を日割り計算した遅延損害金を付して市に返還しなければならない。

第9章 事業者の経営状況の報告等

(事業者の経営状況に係る報告)

第69条 事業者は、事業期間中毎年5月末までに、本事業の経営状況を書面にて、市に報告しなければならない。指定管理業務期間中における当該報告には、管理業務の実施状況及び施設の利用状況、使用料又は利用料金の収入状況、管理業務の経費の収支状況、その他市が必要と定める事項を含むものとする。

(事業者の経営状況に対する市によるモニタリング)

第70条 市は、前条の規定により提出された報告による財務状況の確認により、必要があると認められる場合、事業者に対し財務状況の改善を勧告できるものとする。

2 事業者は、前項の規定により勧告がなされた場合、速やかに財務状況改善計画書を市に提出し、その確認を受け、当該改善計画を適切に実行しなければならない。

第10章 自主事業

(自主事業)

第71条 事業者は、契約関連書類に基づき、自主事業を実施しなければならない。

2 事業者は、自主事業の実施に当たり、事前に市に実施計画書を提出し、毎年度承諾を得なければならない。

(費用負担及び収入)

第72条 自主事業の実施に要する運営費は、全て事業者の負担とする。

2 自主事業の実施により得られる収入は、事業者の収入とする。

(営業日及び営業時間)

第73条 事業者は、自らの提案により自主事業の実施日時又は営業日及び営業時間を定めることができる。

この場合において、市は、当該実施日時又は営業日及び営業時間について、必要に応じて事業者と調整を行うことができる。

2 事業者は、自主事業の実施日時又は営業日時及び営業時間を維持管理及び運営業務に支障がないように留意するものとする。

(自主事業の料金)

第74条 自主事業の料金は、事業者が自ら設定する。この場合において、事業者は、当該事業が公共施設で実施する事業であることに配慮するものとする。

2 前項の場合において、市は、事業者が設定する料金について、適宜、事業者から報告を求め、必要に応じて当該料金の設定に関し、事業者に指導し、調整を行うことがある。

(実施期間)

第75条 自主事業の実施期間は、第9条に規定する運用開始日から運営期間終了日までとする。

2 事業者は、自主事業の開始後、利用者サービスの向上等が見込まれる場合は、市との協議により、自主事業の内容を変更することができるものとする。

(市への報告義務)

第76条 事業者は、第58条に準じ、自主事業に係る通常業務報告書、随時業務報告書その他の報告書を作成し、市に提出しなければならない。

(自主事業に対する市によるモニタリング)

第77条 市は、自主事業の実施状況を確認し、事業者による自主事業が契約関係書類及び実施計画書に適合しているかを確認するために、次のとおり、モニタリングを実施する。ただし、事業者に発生する費用は、事業者が負担するものとする。

- (1) 定期モニタリング:事業者から提出される通常業務報告書を確認するほか、現地巡回、業務監視、事業者への説明要求等により業務遂行状況を把握し、通常業務報告書の記載事項の事実の検証を行う。
 - (2) 随時モニタリング:市が必要と認めたときに事業者に提出を求める随時業務報告書を確認するほか、前号と同様の内容のモニタリングを随時行う。
- 2 市は、前項のモニタリングの実施の際に、事業者に事前に通知することにより、自主事業の状況について、説明及び立会いを要求することができるものとし、事業者は、市からのその要求に対し最大限協力するものとする。
- 3 市は、第1項のモニタリングの結果に基づき、事業者による業務の実施状況の良否を判断し、この判断結果を通常業務報告書又は随時業務報告書を受領した日から起算して 5 営業日目までに事業者に通知するものとする。
- 4 市は、第1項のモニタリングの結果、事業者による自主事業の実施状況について、公共施設における事業として相応しくないと認められる場合は、事業者に対し改善を求めることができるものとする。

(自主事業の終了)

第78条 事業者は、採算の悪化などにより自主事業の継続が困難となった場合は、市に通知し、運営期間の終了前における自主事業の終了について市と協議を行うものとする。

(自主事業中に第三者に及ぼした損害)

第79条 事業者が自主事業に関し、第三者に損害を及ぼした場合は、直ちに市へ報告するものとし、当該損害のうち、事業者の責めに帰すべき事由によるものは、事業者が賠償し、自らの責任及び費用負担で対処しなければならない。

(自主事業に係る保険)

第80条 事業者は、前条に規定する損害賠償に備えるため、自主事業の実施内容に応じ、自己の費用で適切な保険に加入しなければならない。

- 2 事業者は、前項の保険に係る契約書及び保険証書の写しを当該保険の契約締結後、速やかに市に提出しなければならない。
- 3 事業者は、第1項に規定する保険金請求権について、金融機関等のために、事前に市から書面による承諾を得た上で質権等の担保権を設定する場合を除き、担保権を設定してはならない。

第11章 契約期間及び契約の終了

(契約期間)

第81条 本契約の有効期間は、本契約締結日から令和 20 年 3 月末日までとする。ただし、事業期間終了日経過時において未履行である市又は事業者の本契約上の義務及びそれに起因して事業期間終了日の経過後に発生した義務は、その履行が完了するまで法的拘束力を延長するものとする。

(期間満了時の取扱い)

第82条 事業者は、本契約終了に当たり、市が継続的に維持管理及び運営業務を行うことができるように、本施設の維持管理及び運営業務に係る必要事項を市に説明し、事業者が使用した維持管理及び運営業務に関する操作要領、申し送り事項その他の関係資料を市に提供する等、本施設の維持管理及び運営業務の引き継ぎに必要な協力を行わなければならない。

(市による本契約の終了)

第83条 市は、本施設の市への引渡しの前に、次の各号に掲げる事項のいずれかに該当する場合には、事業者に対し書面で通知することにより、本契約の全部を解除して終了させ、又は解除せずに事業者の契約上の地位を市が選定した第三者に移転させることができるものとする。

- (1) 事業者が業務開始予定日を経過したにもかかわらず、設計又は改修・工事監理業務に着手せず、市が相当の期間を定めて催告しても着手しないことについて、事業者から市が納得できる程度の合理的な説明がなされないとき。
- (2) 事業者の責めに帰すべき事由により、本施設の引渡し予定日に、本契約に従って本施設の引渡しが行なされないとき。ただし、市及び事業者の合意により引渡し予定日に変更された場合は、この限りでない。
- (3) 前2号に定めるほか、事業者が本契約に違反し、市が相当の期間を定めて催告しても、その違反の状態が解消されず、かつ、当該違反により本事業の目的が達成できないと認められるとき。

2 市は、本施設の市への引渡しの後、次の各号に掲げる事項のいずれかに該当する場合、事業者に対し書面で通知することにより、別紙2に記載する「モニタリング及びペナルティの考え方」に基づき、本契約の全部を解除して終了させ、又は解除せずに事業者の契約上の地位を市が選定した第三者に移転させることができるものとする。

- (1) 事業者の責めに帰すべき事由により、本施設の運用開始予定日までに開業できないとき又はその見込みがないことが明らかになったとき。ただし、市及び事業者の合意により運用開始予定日に変更された場合は、この限りでない。
- (2) 事業者が提供するサービスが、第 59 条 第1項に規定する本施設の維持管理及び運営業務に対するモニタリングの結果、第 67 条 に規定する不適合業務として認められ、別紙2に記載する「モニタリング及びペナルティの考え方」に基づき、市から事業者に対して改善勧告がなされたにもかかわらず、改善のために相当な期間経過後も改善がなされず、かつ、当該不適合な状態により本事業の目的の達成が不可能であると認められたとき。
- (3) 事業者が提供するサービスが、第 59 条 第1項に規定する本施設の維持管理及び運営業務に対するモニタリングの結果、事業者の責めに帰すべき事由により、連続して30日以上又は1年間のうち100日以上、要求サービス水準を満たしていないと認められる状況が存在したとき。

- 3 市は、本施設の市への引渡しの前後を問わず、次の各号に掲げる事項のいずれかに該当する場合、書面により事業者へ通知することにより、本契約の全部を解除して終了させることができるものとする。
- (1) 本施設が利用できない等、事業者による本事業の放棄と認められる状況が、7 日以上継続したとき。
 - (2) 事業者が、破産、会社更生、民事再生、特別清算及び今後制定される倒産に関する法律に基づく手続その他これらに類する法的倒産手続について、事業者の取締役会等でその申立てを決議したとき又は事業者の取締役等を含む第三者によってその申立てがなされたとき。
 - (3) 事業者が支払不能又は支払停止となったとき。
 - (4) 事業者が故意又は過失により、通常業務報告書等及び随時業務報告書、財務状況の報告、請求書等に著しい虚偽記載を行ったとき。
 - (5) 事業者の責めに帰すべき事由により、本契約の履行が困難になったとき。
 - (6) 前各号に定めるほか、事業者が本契約に違反し、事業者の責めに帰すべき事由により、本事業の目的の達成が不可能であると認められたとき。
- 4 本契約が、前3項の規定により終了した場合は、市及び事業者は、本契約終了の時期の区分に応じて、次の各号に掲げる処理に従うものとする。
- (1) 当該解除が、本施設の引渡し前になされた場合 次に定める処理
 - ア 事業者は、市に対し、別紙4に記載する「サービスの対価の支払方法」の「①設計及び改修・工事監理業務のサービスの対価」のうち、「ア施設費」における調査・設計費、改修費及び工事監理費に相当する金額並びに当該額に係る消費税等相当額の合計額の10分の1の違約金を直ちに支払うこと。なお、当該違約金の支払いは、市に生じた損害額が当該違約金の金額を超える場合、その超過分についての市の事業者に対する損害賠償請求を妨げるものではない。
 - イ 市は、出来形部分について、相当する金額により買い取ることができる権利又は事業者に自己の費用で本施設を撤去させる権利のいずれかを行使すること。この場合において、買取代金は、当該価格の決定後一括にて支払うことを原則とするが、市の支払いに関する予算措置の必要性等に鑑み、契約解除等における支払条件については、市及び事業者の協議により決定するものとする。
 - ウ 事業者は、本施設に設置された事業者が所有する機器等について、市が買い取るものを除き、自己の費用で速やかに撤去すること。
 - (2) 当該解除が、本施設の引渡し後になされた場合 次に定める処理
 - ア 事業者は、市に対し、維持管理及び運営業務の当該事業年度のサービスの対価の12分の3に相当する金額の違約金を支払うこと。なお、当該違約金の支払いは、市に生じた損害額が当該違約金の金額を超える場合、その超過分についての市の事業者に対する損害賠償請求を妨げるものではない。
 - イ 市は、設計及び改修・工事監理業務のサービスの対価に相当する金額のうち、事業者に未払いの金額相当額を支払い、本施設をそのまま所有すること。この場合において、当該支払いは、当該金額の決定後一括にて支払うことを原則とするが、市の支払に関する予算措置の必要性等に鑑み、契約解除等における支払条件については、市及び事業者の協議により決定するものとする。また、市は、本契約の解除までに事業者が実施した本施設の維持管理及び運営業務のサービスの対価のうち未払いの金額相当額を第 65 条 第 65 条 に定められた方法により支払うものとする。
 - ウ 事業者は、本施設に設置された事業者が所有する機器等について、市が買い取るものを除き、自己の費用で速やかに撤去すること。この場合において、市による買い取りの対象となる機器等について、修繕が必要であると認められるときは、事業者は、当該修繕に必要な手配を行い、当該修繕費用及び当該額に係る消費税等相当額の合計額を別途負担すること。

(事業者による本契約の終了)

第84条 事業者は、市がサービスの対価の支払義務その他の本契約上の重要な義務に違反し、かつ、事業者による催告後180日以内に当該違反を是正しない場合、市に対し書面で通知することにより、本契約の全部を解除して、契約を終了することができるものとする。

2 市及び事業者は、前項の規定により契約を終了した場合、本契約終了の時期の区分に応じて、次の各号に掲げる処理に従うものとする。

(1) 当該解除が、本施設の引渡し前になされた場合 次に定める処理

ア 市は、出来形部分がある場合は、本施設の出来形部分を検査の上、相当する金額及び当該額に係る消費税等相当額の合計額で、本施設の出来形部分を買取りすること。この場合において、買取代金は、当該価格の決定後一括にて支払うことを原則とするが、市の支払いに関する予算措置の必要性等に鑑み、契約解除等における支払条件については、市及び事業者の協議により決定するものとする。

イ 市は、アに規定する買取代金のほか、事業者との契約解除により事業者に生じる手数料、違約金、事業者が得られていたはずの業務上の必要経費を除いた利益分(契約解除以降2年分を上限として市と事業者で協議して定める。)、当該買取代金によっては填補されない費用その他の損失のうち市の不履行と相当な因果関係の範囲にある保険により填補されるべき金額を控除した合理的な金額及び当該額に係る消費税等相当額の合計額を事業者と協議の上、事業者に支払うこと。この場合において、当該支払いは、当該金額の決定後一括にて支払うことを原則とするが、市の支払いに関する予算措置の必要性等に鑑み、契約解除等における支払条件については、市及び事業者の協議により決定するものとする。

ウ 事業者は、本施設に設置された事業者が所有する機器等について、市が買取るものを除き、自己の費用で速やかに撤去すること。

(2) 当該解除が、本施設の引渡し後になされた場合 次に定める処理

ア 市は、本施設の所有権を引き続き保有することを前提として、事業者に対し、本施設の設計及び改修・工事監理業務のサービスの対価のうち、事業者に未払いの金額相当額を支払うこと。この場合において、当該支払いは、当該金額の決定後一括にて支払うことを原則とするが、市の支払いに関する予算措置の必要性等に鑑み、契約解除等における支払条件については、市及び事業者の協議により決定するものとする。

イ 市は、アに規定する債務のほか、事業者の維持管理及び運營業務の受託者の契約解除により事業者に生じる手数料、違約金、事業者が得られていたはずの業務上の必要経費を除いた利益分(契約解除以降2年分を上限として市と事業者で協議して定める。)その他の損失のうち市の不履行と相当な因果関係の範囲にある保険により填補されるべき金額を控除した合理的な金額及び当該額に係る消費税等相当額の合計額を事業者と協議の上、事業者に支払うこと。この場合において、当該支払いは、当該金額の決定後一括にて支払うことを原則とするが、市の支払いに関する予算措置の必要性等に鑑み、契約解除等における支払条件については、市及び事業者の協議により決定するものとする。

ウ 事業者は、本施設に設置された事業者が所有する機器等について、市が買取るものを除き、自己の費用で速やかに撤去すること。

(市の公益上の事由による契約終了)

第85条 市は、本事業の実施の必要が無くなった場合又は本施設の転用が必要となった場合には、事業者に対し180日以上前に書面で通知することにより、本契約の全部を解除して終了させることができるものとする。

2 市及び事業者は、本契約が、前項の規定により終了した場合、前条第2項を準用して適切に処理するものとする。

(法令変更又は不可抗力等による場合の契約の終了)

第86条 法令変更又は不可抗力により、本事業の実施の継続が著しく困難若しくは不可能なとき又は本事業の実施に過大な費用を要すると認められる場合で市及び事業者との間の協議が整わないときは、市は、本契約の全部を解除して終了させることができるものとする。

2 前項の規定により本契約の全部が終了する場合には、市及び事業者は、次の各号に掲げる本契約終了の時期の区分に応じて、当該各号に掲げる処理に従うものとする。

(1) 当該解除が、本施設の引渡し前になされた場合 次に定める処理

ア 市は、出来形部分がある場合には、本施設の出来形部分を検査の上、保険により^{てんぽ}填補されるべき金額を控除した相当する金額及び当該額に係る消費税等相当額の合計額で、本施設の出来形部分を買取る。この場合において、買取代金は、当該価格の決定後一括にて支払うことを原則とするが、市の支払いに関する予算措置の必要性等に鑑み、契約解除等における支払条件については、市及び事業者の協議により決定するものとする。

イ 市は、アに規定する買取代金のほか、事業者との契約解除により事業者に生じる手数料、違約金、当該買取代金によっては^{てんぽ}填補されず、かつ、事業者に係る逸失利益を含まない費用及び当該額に係る消費税等相当額の合計額のうち、当該法令変更、不可抗力等との相当な因果関係の範囲にある保険により^{てんぽ}填補されるべき金額を控除した合理的な金額及び当該額に係る消費税等相当額の合計額について、事業者と協議の上、事業者に支払うこと。この場合において、当該支払いは、当該金額の決定後一括にて支払うことを原則とするが、市の支払いに関する予算措置の必要性等に鑑み、契約解除等における支払条件については、市及び事業者との協議により決定するものとする。

ウ 事業者は、本施設に設置された事業者が所有する機器等について、市が買い取るものを除き、自己の費用で速やかに撤去すること。

(2) 当該解除が、本施設の引渡し後になされた場合 次に定める処理

ア 市は、本施設を引き続き保有又は所有権を留保することとして、事業者に対し本施設の設計及び改修・工事監理業務のサービスの対価のうち、事業者に未払いの金額相当額を支払うこと。この場合において、当該支払いは、当該金額の決定後一括にて支払うことを原則とするが、市の支払いに関する予算措置の必要性等に鑑み、契約解除等における支払条件については、市及び事業者との協議により決定するものとする。

イ 市は、アに規定する債務のほか、事業者との契約解除により事業者に生じる手数料、違約金、当該買取代金により^{てんぽ}填補されない事業者に係る逸失利益を含まない費用及び当該額に係る消費税等相当額の合計額のうち、当該法令変更、不可抗力等と相当な因果関係の範囲にある保険により^{てんぽ}填補されるべき金額を控除した合理的な金額及び当該額に係る消費税等相当額の合計額について、事業者と協議の上、事業者に支払うこと。この場合において、当該支払いは、当該金額の決定後一括にて支払うことを原則とするが、市の支払いに関する予算措置の必要性等に鑑み、契約解除等における支払条件については、市及び事業者の協議により決定するものとする。

ウ 事業者は、本施設に設置された事業者が所有する機器等について、市が買い取るものを除き、自己の費用で速やかに撤去すること。

第12章 法令変更

(法令変更に係る通知の付与)

第87条 事業者は、法令変更により、次の各号のいずれかに該当し、又は、該当するおそれがあると認められる場合は、速やかにその内容の詳細を記載した書面により市に対し通知しなければならない。

(1) 契約関係書類に従って本事業の改修・工事監理業務を実施できなくなった場合又はその実施に当たり過分の費用を要すると認められる場合

(2) 契約関係書類又は維持管理業務仕様書及び運営業務仕様書に従って本施設の維持管理及び運営業務を実施できなくなった場合、若しくはその実施に当たり過分の費用を要すると認められる場合

3 市及び事業者は、前項に規定する通知がなされた時点以降、本契約に基づく自己の義務が適用法令に違反することとなった場合は、履行期日における義務が当該適用法令に違反する限りにおいて、その履行義務を免れるものとする。この場合において、市又は事業者は、相手方に生じる損害を最小限に抑えるよう努力しなければならない。

(法令変更に係る協議及び追加費用の負担)

第88条 市は、事業者から前条第1項の規定による通知を受領したときは、直ちに、調査を行い、当該通知の内容が事実と合致しているか否かについて確認した上で、当該法令変更に対応するために、速やかに本契約及び設計図書等の変更並びに必要な追加費用の負担について、事業者と協議するものとする。

2 前項の協議にかかわらず、新設又は改廃された法令の施行の日から30日以内に本契約等の変更及び必要な追加費用の負担についての合意が成立しない場合には、市は、その対応方法を決定し、事業者に通知するものとし、事業者はこれに従わなければならない。

3 前項により市が決定した対応方法による追加費用については、当該法令変更が本事業に直接関連する法令変更(ただし、租税に係る法令は除く)、消費税等に関する法令変更の場合は、市が負担するものとする。ただし、消費税等の法令変更に係る追加費用は、市が事業者に対して支払うサービス対価に係る消費税に限るものとする。

第13章 公租公課

(公租公課の負担)

第89条 本契約に関連して生じる公租公課は、本契約に別段の定めがある場合を除き、全て事業者の負担とし、市は、本契約の定めに従いサービスの対価を支払うほか、本契約に関連して生じる公租公課を別途負担しないものとする。

第14章 不可抗力

(不可抗力に係る通知の付与)

第90条 事業者は、不可抗力により、次の各号のいずれかに該当し、又は該当するおそれがあると認められる場合は、その内容の詳細を記載した書面により市に対し通知しなければならない。

- (1) 契約関係書類に従って本事業の改修・工事監理業務を実施できなくなった場合又はその実施に当たり過分の費用を要すると認められる場合
- (2) 契約関係書類又は維持管理業務仕様書及び運営業務仕様書に従って本施設の維持管理及び運営業務を実施できなくなった場合、若しくはその実施に当たり過分の費用を要すると認められる場合

2 市及び事業者は、不可抗力により履行できなくなった義務を免れるものとする。この場合において、市又は事業者は、相手方に生じる損害を最小限に抑えるよう努力しなければならない。

(不可抗力に係る協議及び追加費用の負担)

第91条 市は、事業者から前条第1項の規定による通知を受領したときは、直ちに調査を行い、当該通知の内容が事実と合致しているか否かについて確認した上で、当該状況に対応するために、速やかに本契約及び設計図書等の変更並びに修繕及び必要な追加費用等の負担(以下「対応策等」という。)について、事業者と協議するものとする。

2 前項の協議にかかわらず、協議を開始した日から14日以内に対応策等についての合意が成立しない場合には、市は、対応策等を決定して事業者に通知するものとし、事業者は、これに従わなければならない。

3 前項により市が決定した対応策等の費用負担は次の各号のとおりとする。

- (1) 本施設の引渡し前においては、当該費用のうち、第三者による損害賠償、保険又は政府による支援等により填補されなかった費用のうち、別紙4に記載する「サービスの対価の支払方法」の「①設計及び改修・工事監理業務のサービスの対価」のうち、「ア施設費」における調査・設計費、改修費及び工事監理費に相当する金額並びに当該額に係る消費税等相当額の合計額の100分の1相当額に至るまでの費用は、事業者が負担するものとし、残額を市の負担とすること。
- (2) 本施設の引渡し後においては、当該費用のうち、第三者による損害賠償、保険又は政府による支援等により填補されなかった費用のうち、別紙4に記載する「サービスの対価の支払方法」の「②維持管理及び運営業務のサービスの対価」のうち、各事業年度の「ウ 維持管理費」及び「エ 運営費」に相当する金額及び当該額に係る消費税等相当額の合計額の100分の1相当額に至るまでの費用は、事業者が負担するものとし、残額を市の負担とすること。この場合において、同一事業年度内に数回にわたる負担が必要となったときには、事業者は、当該費用のうち、第三者による損害賠償、保険又は政府による支援等により填補されなかった費用の当該事業年度の累計額のうち、別紙4に記載する「サービスの対価の支払方法」の「②維持管理及び運営業務のサービスの対価」のうち、当該事業年度の「ウ 維持管理費」及び「エ 運営費」に相当する金額及び当該額に係る消費税等相当額の合計額の100分の1相当額に至るまでの費用を負担すること。
- (3) 前2号の規定にかかわらず、事業者が善良な管理者の注意義務を怠ったことにより当該費用が発生した場合及び事業者が付保義務のある保険の加入又は維持を怠ったことにより当該費用が保険により填補されない場合は、当該費用全額を事業者が負担しなければならない。

(不可抗力への対応)

第92条 市及び事業者は協力して、前条第1項による対応策等が決定されるまでの間、不可抗力による本事業への影響を早期に除去し、損害を最小限に抑えるよう、適切な対応を行わなければならない。

第15章 関係者協議会

(関係者協議会の設置)

第93条 市及び事業者は、本事業に関する協議を行うために、関係者協議会を設置する。

- 2 市及び事業者は、本契約の締結後、速やかに、関係者協議会の組織及び運営に必要な事項を定めるものとする。
- 3 市は、必要に応じて関係者協議会を招集するものとする。
- 4 事業者は、必要があると判断したときは、市に対し関係者協議会の招集を請求することができる。

(関係者協議会の構成員)

第94条 関係者協議会は、市及び事業者の代表者各3名程度により構成されるものとする。ただし、市及び事業者は、関係者協議会における協議により、構成員数を変更することができるものとする。

- 2 市及び事業者は、必要に応じて職員、役員、従業員及びその他の者を関係者協議会に出席させることができるものとする。
- 3 市及び事業者が必要と判断した場合には、関係者協議会の構成員は、各自が第三者を関係者協議会に招致し、関係者協議会の意思決定に際して、その第三者の意見を聴取することができるものとする。

第16章 その他

(契約上の地位の譲渡等)

第95条 事業者は、事前に市の書面による承諾がある場合を除き、本契約上の地位及び権利義務を第三者に譲渡又は担保に供するその他の処分をしてはならない。ただし、法令等に反しない範囲で、事業者が本事業のために融資を行う銀行その他の金融機関に対して担保権を設定する場合は、市は、合理的な理由なく書面による承諾を留保し、拒絶し、又は遅延してはならない。

(担保権の設定)

第96条 事業者は、事前の市の書面による承諾がある場合を除き、事業者の所有する建築設備、機器等を譲渡し、又はこれに担保権を設定してはならない。ただし、法令等に反しない範囲で、事業者が本事業のために融資を行う銀行その他の金融機関に対して担保権を設定する場合は、市は、合理的な理由なく書面による承諾を留保し、拒絶し、又は遅延してはならない。

(秘密保持)

第97条 市及び事業者は、互いに本事業に関して知り得た相手方の秘密及び事業者が本事業の実施を通じて知り得た情報を第三者に漏らしてはならず、かつ、本契約の履行以外の目的に使用してはならない。ただし、市及び事業者が認めた場合、若しくは市又は事業者が、法令等又は監督官庁からの要請に基づき開示する場合は、この限りでない。

(著作権の利用等)

第98条 事業者は、市に対し、本施設の維持管理・運営、広報等に必要な範囲において、成果物(設計図書その他の事業者が本契約又は市の請求により市に提出した一切の書面、写真、映像等をいう。本条において同じ。)を市が自ら複製し、若しくは翻案、変形、改変その他の修正を行うこと又は市の委託した第三者に複製させ、若しくは翻案、変形、改変その他の修正を行わせることを許諾する。

2 事業者は、市に対し、本施設を写真、模型、絵画その他の媒体により表現するために、本施設の撮影等を許諾する。

3 事業者は、市に対し、成果物又は本施設の内容を自由に公表することを許諾する。

4 事業者は、次の各号に掲げる行為をしてはならない。ただし、あらかじめ、市の承諾を得た場合は、この限りでない。

(1) 成果物又は本施設の内容を公表すること。

(2) 本施設に事業者の実名又は変名を表示すること。

5 事業者は、第1項の場合において、著作権法第19条第1項及び第20条第1項の権利を行使せず、かつ、役員等に行使させないものとする。

6 事業者は、成果物又は本施設に係る著作権法第2章及び第3章に規定する事業者の権利を譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、あらかじめ、市の承諾を得た場合は、この限りでない。

7 事業者は、本契約の履行に当たり、第三者の有する知的財産権(知的財産基本法(平成14年法律第122号)第2条第2項に規定する知的財産権をいう。次項において同じ。)を侵害するものでないことを、市に対して保証する。

8 成果物又は本施設が第三者の有する知的財産権を侵害した場合において、当該第三者に対して損害の賠償を行い、又は必要な措置を講じなければならないときは、事業者がその賠償額を負担し、又は必要な措置を講ずるものとする。

9 本条の規定は、本契約の終了後もなお効力を有するものとする。

(準拠法)

第99条 本契約は、日本国の法令に準拠し、日本国の法令に従って解釈される。

(管轄裁判所)

第100条 本契約に関する当事者間に生じた一切の紛争については、富山地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とする。

(疑義の決定)

第101条 本契約に定めのない事項又は本契約の解釈に関して疑義が生じた場合には、市及び事業者が誠実に協議の上、これを決定するものとする。

別紙1 用語の定義(第1章 関係)

本約款において使用する用語の定義は、次のとおりとする。

- (1) 「募集要項等」とは、令和8年1月20日に市が公表した(仮称)とやまくすりミュージアム整備・運営事業募集要項及び公募開始後に受け付けた質問に対する市の回答をいう。
- (2) 「要求水準書等」とは、令和8年1月20日に市が公表した(仮称)とやまくすりミュージアム整備・運営事業要求水準書、添付資料、閲覧資料及び公募開始後に受け付けた質問に対する市の回答をいう。
- (3) 「事業者提案」とは、事業者が、市に提出した提案書及び交渉時に提出された提案図書による提案をいう。
- (4) 「設計図書等」とは、事業者が作成する本施設の設計に係る一切の書類をいう。
- (5) 「本事業」とは、市が民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(平成11年法律第117号)に基づき、特定事業として選定した(仮称)とやまくすりミュージアム整備・運営事業をいう。
- (6) 「事業契約書等」とは、(仮称)とやまくすりミュージアム整備・運営事業仮契約書及び事業契約約款並びに本契約の締結以降に、本事業に関し、市及び事業者の合意を記載した一切の書類をいう。
- (7) 「契約関係書類」とは、事業契約書等、要求水準書等、募集要項等、事業者提案及び設計図書等をいう。
- (8) 「本契約締結日」とは、本契約の締結について富山市議会の議決を得た日をいう。
- (9) 「工事着手日」とは、事業者が本事業の改修工事に着手する日をいう。
- (10) 「不可抗力」とは、暴風、豪雨、洪水、高潮、雷、地滑り、落盤、地震その他の自然災害、又は戦争、テロリズム、放射能汚染、火災、騒擾、騒乱、暴動その他の人為的な現象のうち、通常の見可能な範囲外のもの(契約関係書類で水準が定められている場合にはその水準を超えるものに限る。)(事業者が、善良な管理者の注意義務を尽くしても回避できない第三者による損害を含む。)などであって、市又は事業者のいずれの責めにも帰さないものをいう。ただし、法令の変更は、「不可抗力」に含まれない。
- (11) 「サービスの対価」とは、契約に基づく事業者の債務履行に対し、別紙4に記載する「サービスの対価の支払方法」に従って市が支払う対価をいう。
- (12) 「施工計画書」とは、事業者が作成予定の本施設の改修工事に係る施工手順及び施工方法を記載した書類をいう。
- (13) 「完成図書」とは、事業者が作成する本施設の完成に係る一切の書類をいう。
- (14) 「利用者」とは、本施設を利用する者といい、来館者、職員、関係者を含む。
- (15) 「事業年度」とは、毎年4月1日から始まる1年間をいう。
- (16) 「業務開始予定日」とは、設計業務、改修・工事監理業務、開業準備業務、維持管理業務、運営業務それぞれについて、事業者の提案に基づいて市が決定した日をいう。
- (17) 「契約解除等における支払条件」とは、第83条 から第86条 に規定する市の支払いのうち、契約書に定める支払スケジュールを変更することにより必要となる手数料相当額を含む具体的な支払時期、支払方法をいう。

別紙2 モニタリング及びペナルティの考え方

(第 15 条、第 26 条、第 43 条、第 59 条、第 67 条、第 83 条 関係)

1 モニタリングの基本的考え方

市は、市が支払うサービスの対価に対して事業者が実施する業務が適切に遂行されているか確認することを目的として、モニタリングを行う。

(1) モニタリングの項目

市は、以下の各段階において、事業者の実施する業務のモニタリングを行う。

① 本施設の設計及び改修段階におけるモニタリング:第 15 条、第 26 条 関係

事業者提案及び本契約に基づき、本施設の設計及び改修・工事監理業務が適切に行われているかをモニタリングする。

② 本施設の開業準備段階におけるモニタリング: 第 43 条 関係

事業者提案及び本契約に基づき、本施設の開業準備業務が適切に行われているかをモニタリングする。

③ 本施設の維持管理及び運営業務段階におけるモニタリング:第 59 条 関係

事業者提案及び本契約に基づき、本施設の維持管理及び運営業務が、適切に行われているか、また、サービスの提供方法や利用者の満足度等を調査するとともに、本施設の利用が可能である状態をモニタリングする。維持管理及び運営業務段階におけるモニタリングは、以下の2つの視点について実施する。

- a) 本施設が本来有すべき機能にて利用できる状態にあることの確認。
- b) 要求サービス水準を適合していることの確認。

(2) モニタリングの方法

市は、設計及び改修段階における市自らの立ち会い又は確認、事業者から提出された定期的な報告、開業準備段階における報告、又は維持管理及び運営業務段階における通常業務報告書等及び随時業務報告書により、施設利用可能状況の把握及び要求サービス水準を満たしていることの確認を行う。さらに、通常業務報告書等及び随時業務報告書記載事項の事実の確認を行う。

2 ペナルティの基本的考え方

市は、開業準備段階、維持管理及び運営段階において、事業者が実施する業務に支障があると判断した場合には、一定の経過措置を経た後、事業者へ支払うサービスの対価のうち、該当する業務に相当する金額を減額する。

(1) ペナルティ対象事象

- ① 事業者の責めに帰すべき事由により、施設の全部又は一部が利用できない場合。
- ② 事業者の責めに帰すべき事由により、要求サービス水準が達成されない場合。

(2) ペナルティに至るまでの経過措置とペナルティによるサービスの対価の減額

モニタリングにより、ペナルティ対象の事象が判明した際に、市は、事業者に対して改善勧告を行う。

事業者は、市と協議の上、事実確認に基づき改善計画書を提出し、改善措置を講ずるものとする。

ペナルティ対象の業務、状況毎に、市と事業者との協議の上、決定した改善完了予定日(図1に記す)を経過したにもかかわらず改善されない場合には、開業準備業務、維持管理及び運営業務のサービスの対価の減額に至るものとする。

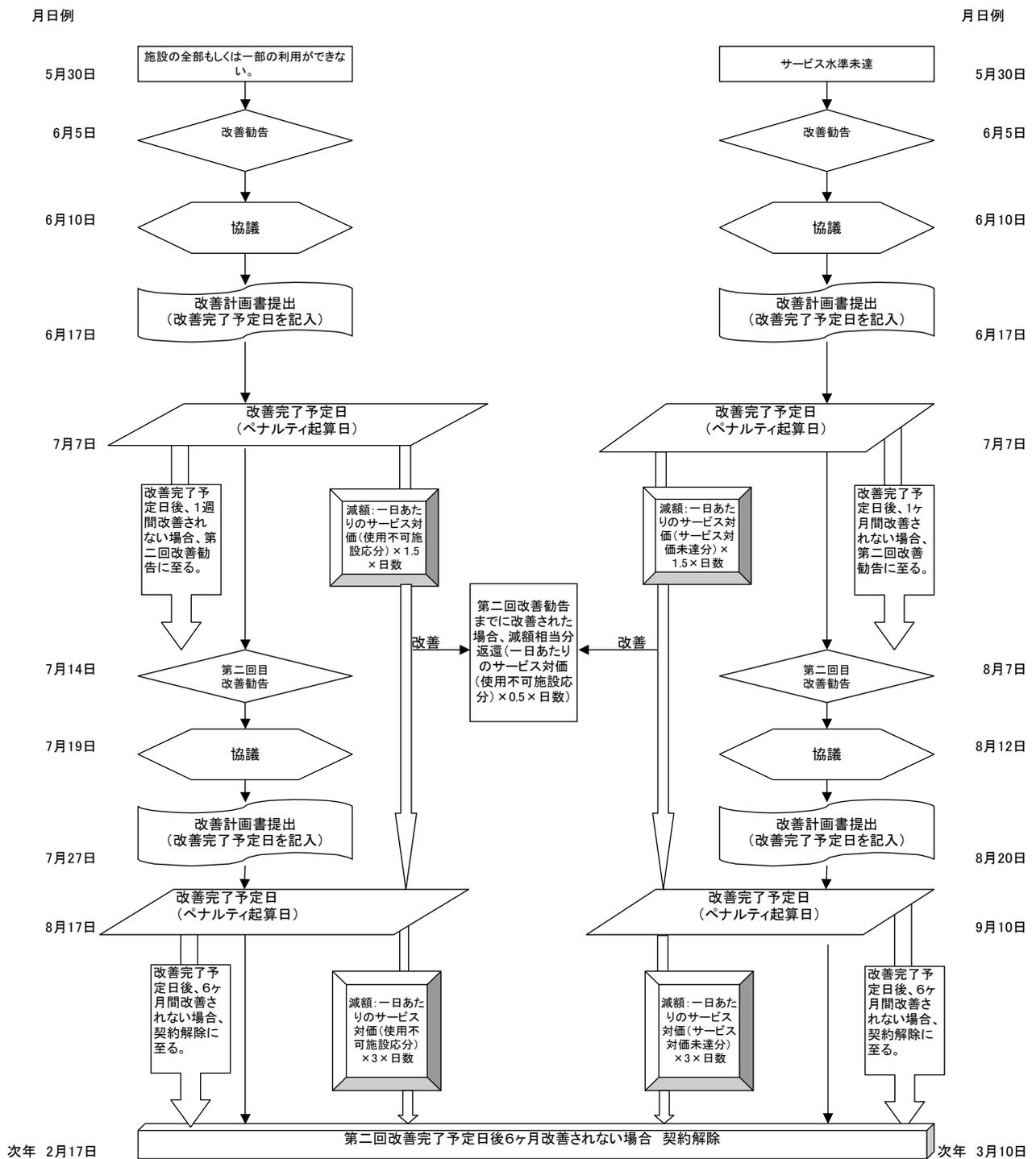


図 1 モニタリング及びペナルティの考え方

別紙3 改修、維持管理及び運營業務期間中の保険(第 34 条、第 45 条、第 63 条 関係)

事業者は、本施設の改修、維持管理及び運營業務期間中、以下に記載する保険に加入しなければならない。

表 1 改修、維持管理及び運營業務期間中の保険

期間	保険種目	主な担保リスク	保険契約者	被保険者
改修・工事監理期間	工事契約履行保証保険※	工事受託者の契約不履行に基づく契約解除違約金	事業者	市又は事業者 ※※※
	請負業者賠償責任保険	工事遂行に起因して発生した第三者賠償責任損害及び訴訟費用等 交叉責任担保、管理財物担保	事業者	市、事業者、改修・工事監理業務を行う代表企業又は構成企業、下請負人
	建設工事保険 (火災等)	工事目的物の損害を担保 (戦争・テロ・放射能リスクは除く)	事業者	市、事業者、改修・工事監理業務を行う代表企業又は構成企業、下請負人
開業準備期間	開業準備業務業者賠償責任保険	開業準備業務の遂行に起因して発生した第三者賠償責任損害及び訴訟費用等 管理財物に対する賠償も担保	事業者	事業者、開業準備業務を行う代表企業又は構成企業(その再委託先も含む)
維持管理及び運営期間	維持管理及び運營業務契約履行保証保険※※	維持管理及び運營業務受託者の契約不履行に基づく契約解除違約金	事業者	市又は事業者 ※※※
	維持管理及び運營業務業者賠償責任保険	施設の維持管理及び運營業務の遂行に起因して発生した第三者賠償責任損害及び訴訟費用等 管理財物に対する賠償も担保	事業者	事業者、維持管理及び運營業務を行う代表企業又は構成企業(その再委託先も含む)

(保険名称は一般的な名称であり、保険会社によって異なる名称となることもある。)

上記以外の保険については、事業者の提案により、市と協議の上、決定するものとする。

※ 第 35 条 第1項(1)号～(3)号により対応した場合は不要

※※ 第 64 条 第1項(1)号～(3)号により対応した場合は不要

※※※ 市以外の者を被保険者とする場合は、保険金請求権上に本事業に関連する市の事業者に対する
違約金支払請求権及び損害賠償請求権を被担保権として、市を第一順位とする質権を設定すること。

別紙4 サービスの対価の支払方法(第 39 条、第 65 条 関係)

1 サービスの対価の構成

事業期間中、市が事業者に支払うサービスの対価は、①設計及び改修・工事監理業務のサービスの対価、②維持管理及び運営業務のサービスの対価から構成される。それぞれの対価項目は、以下のとおりである。
 なお、設計変更等により施設費が増減した場合は、「ア 施設費」としてその金額を適用する。

表 2 サービス対価の構成

	項目	内訳	内訳に含まれる費用
① 設計及び改修・工事監理業務のサービスの対価	(1)施設費	ア 施設費	調査・設計費、改修費(什器・備品等の調達及び設置費を含む。)、工事監理費、確認申請等の手続きに要する諸費用、建中利息、その他施設整備に関する初期投資と認められる費用
	(2)開業準備業務費	イ 開業準備費	開業準備費
②維持管理及び運営業務のサービスの対価	(3)維持管理業務費	ウ 維持管理費	建築及び展示に関する保守管理費、建築設備等保守管理費、什器・備品等保守管理費、環境衛生・清掃費、警備保安費、修繕費、その他維持管理業務に要すると認められる費用
	(4)運営業務費	エ 運営費	総合管理業務費、展示事業に関する運営業務費、シアター事業に関する業務費、主催事業の企画実施業務費、企業出展ブースの企画・運営業務費、薬業関連施設の案内・誘導業務費、薬業企業とのタイアップに関する業務費、薬業人材育成・ネットワーク形成事業に関する業務費、光熱費、その他運営業務に要すると認められる費用

※自主事業に係る維持管理・運営費用は、サービス対価に含まれない。

① 設計及び改修・工事監理業務のサービスの対価

設計及び改修・工事監理業務のサービスの対価は、施設整備及び開業準備に必要な一切の費用とする。

② 維持管理及び運営業務のサービスの対価

維持管理及び運営業務のサービスの対価は、維持管理及び運営業務の各業務に要する費用(展示替えを含む。以下同じ。)からなるものとする。

なお、維持管理及び運営業務のサービスの対価は、別紙5に記載する「サービスの対価の改定方法」に示した改定及び別紙2に記載する「モニタリング及びペナルティの考え方」に定める規定による減額が行われない限り、第1回目の支払いを除き原則として、毎支払いに同額が支払われるものとする。

2 支払金額及び支払いスケジュールについて

サービスの対価の支払い金額及びスケジュールについてはそれぞれ、設計及び改修・工事監理業務のサービスの対価については表 3 に、維持管理及び運営業務のサービスの対価のうち、維持管理業務費については表 4 に、運営業務費については表 5 に記載のとおりとする。

3 支払方法

① 本施設の設計業務のサービスの対価の支払方法について

市は、本施設の基本設計及び実施設計の完了後、それぞれ事業者からの請求手続を経て令和●年●月頃(基本設計完了時)及び令和●年●月頃(実施設計完了時)に、本施設の設計業務のサービスの対価を支払うこととする。

② 本施設の改修業務のサービスの対価の支払方法について

市は、本施設の引渡しを受けた後、事業者からの請求手続を経て、令和 10 年 8 月頃に本施設の改修業務のサービスの対価を支払うこととする。

③ 本施設の工事監理業務のサービスの対価の支払方法について

市は、本施設の引渡しを受けた後、事業者からの請求手続を経て、令和 10 年 8 月頃に本施設の改修業務のサービスの対価を支払うこととする。

④ 本施設の開業準備業務のサービスの対価の支払方法について

市は、開業準備業務の完了後、事業者からの請求手続を経て、令和 10 年 10 月頃に本施設の開業準備業務のサービスの対価を支払うこととする。

⑤ 本施設の維持管理及び運営業務のサービスの対価の支払方法について

市は、事業者からの請求手続を経て、第1回(令和 10 年 8 月～9 月分)を令和 10 年 11 月に、第 2 回(令和 10 年 10 月～12 月分)を令和 11 年 2 月に、第3回(令和 11 年 1 月～3 月分)を令和 11 年 5 月に、第4回(令和 11 年 4 月～6 月分)を令和 11 年 8 月に、第5回(令和 11 年 7 月～9 月分)を令和 11 年 11 月に、以降、令和 20 年 5 月まで年4回支払うこととする。

なお、本施設の維持管理及び運営業務のサービスの対価は、別紙5に記載する「サービスの対価の改定方法」に示した改定及び別紙2に記載する「モニタリング及びペナルティの考え方」に定める規定による減額が行われない限り、第1回目の支払いを除き原則として、毎回の支払いにおいて同額を支払うものとする。

表 3 設計及び改修・工事監理業務のサービスの対価の金額及び支払スケジュール(円)

(設計業務相当額)

支払時期	㊦設計業務費	㊧消費税及び 地方消費税相当額	㊨税込計 (=㊦+㊧)
令和●年●月頃 (基本設計業務完了時の翌月頃)			
令和●年●月頃 (実施設計業務完了時の翌月頃)			
合計			

(改修業務相当額)

支払時期	㊩改修業務費	㊪消費税及び 地方消費税相当額	㊫税込計 (=㊩+㊪)
令和10年8月頃 (改修業務完了時の翌月頃)			
合計			

(工事監理業務相当額)

支払時期	㊬工事監理業務費	㊭消費税及び 地方消費税相当額	㊮税込計 (=㊬+㊭)
令和10年8月頃 (改修業務完了時の翌月頃)			
合計			

(開業準備業務相当額)

支払時期	㊯開業準備業務費	㊰消費税及び 地方消費税相当額	㊱税込計 (=㊯+㊰)
令和10年10月頃 (開業準備業務完了時の翌月頃)			
合計			

※上記対価の改定は、第66条及び別紙5に基づき行われるものとする。

表 4 維持管理及び運營業務のサービスの対価(維持管理業務費)の金額及び支払スケジュール(円)

支払時期	㊦維持管理費	㊧消費税及び 地方消費税相当額	㊨税込合計 (=㊦+㊧)
令和10年11月			
令和11年2月			
令和11年5月			
令和11年8月			
令和11年11月			
令和12年2月			
令和12年5月			
令和12年8月			
令和12年11月			
令和13年2月			
令和13年5月			
令和13年8月			
令和13年11月			
令和14年2月			
令和14年5月			
令和14年8月			
令和14年11月			
令和15年2月			
令和15年5月			
令和15年8月			
令和15年11月			
令和16年2月			
令和16年5月			
令和16年8月			
令和16年11月			
令和17年2月			
令和17年5月			
令和17年8月			
令和17年11月			
令和18年2月			
令和18年5月			
令和18年8月			
令和18年11月			
令和19年2月			
令和19年5月			
令和19年8月			

支払時期	㊦維持管理費	㊧消費税及び 地方消費税相当額	㊨税込合計 (=㊦+㊧)
令和19年11月			
令和20年2月			
令和20年5月			
事業期間合計			

※上記対価の改定は、第66条及び別紙5に基づき行われるものとする。

表 5 維持管理及び運營業務のサービスの対価(運營業務費)の金額及び支払スケジュール(円)

支払時期	㊸運営費 (光熱費を除く)	㊹運営費 (光熱費を除く) に係る消費税及 び地方消費税 相当額	㊺光熱費	㊻光熱費に 係る消費税 相当額	㊼税込合計 (=㊸+㊹+㊺+ ㊻)
令和10年11月					
令和11年2月					
令和11年5月					
令和11年8月					
令和11年11月					
令和12年2月					
令和12年5月					
令和12年8月					
令和12年11月					
令和13年2月					
令和13年5月					
令和13年8月					
令和13年11月					
令和14年2月					
令和14年5月					
令和14年8月					
令和14年11月					
令和15年2月					
令和15年5月					
令和15年8月					
令和15年11月					
令和16年2月					
令和16年5月					
令和16年8月					
令和16年11月					
令和17年2月					
令和17年5月					
令和17年8月					
令和17年11月					
令和18年2月					
令和18年5月					
令和18年8月					
令和18年11月					

支払時期	㊸運営費 (光熱費を除く)	㊹運営費 (光熱費を除く) に係る消費税及 び地方消費税 相当額	㊺光熱費	㊻光熱費に 係る消費税 相当額	㊼税込合計 (=㊸+㊹+㊺+ ㊻)
令和19年2月					
令和19年5月					
令和19年8月					
令和19年11月					
令和20年2月					
令和20年5月					
事業期間合計					

※上記対価の改定は、第66条 及び 別紙5 に基づき行われるものとする。

別紙5 サービスの対価の改定方法(第 66 条 関係)

1 設計及び改修・工事監理業務のサービスの対価の改定に関する基本的考え方

- ・改修・工事監理業務のサービスの対価(公租公課を除く。)については、事業契約書等に基づいて決定される金額を基に物価変動率を勘案して改定するものとし、改定方法については、事業契約締結日の属する月の「建築費指数—都市別指数・金沢—事務所・RC:財団法人建設物価調査会」を用い、着工時期の同指数と比較して1.5パーセント以上の差が生じた場合、協議のうえ、生じた差分に応じてサービスの対価の改定を行う。
- ・改修・工事監理業務の物価変動に基づくサービス対価の改定は、次式によって表されるものとする。

$$\text{物価変動率} = \frac{\text{【工事着工日の属する月の建築費指数】}}{\text{【事業契約締結日の属する月の建築費指数】}} - 1$$

※ 物価変動率に小数点以下第3位未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。

物価変動率 > 0.015 の場合

$$\text{改定後の施設整備費} = \text{提案時の施設整備費} \times (1 + (\text{物価変動率}) - 0.015)$$

物価変動率 < -0.015 の場合

$$\text{改定後の施設整備費} = \text{提案時の施設整備費} \times (1 + (\text{物価変動率}) + 0.015)$$

※ 施設整備費は、別紙4 表 2「ア施設費」のうち「改修費」のみとする。

2 維持管理及び運営業務のサービスの対価の改定に関する基本的考え方

- ・維持管理及び運営業務のサービスの対価(公租公課を除く。)については、事業契約書等に基づいて決定される金額を基に物価変動率を勘案して改定するものとする。
- ・改定方法については、毎年8月の指数(表 6 参照)を用い、前回改定年度の前年の1月から12月までの指数の平均値(初回の改定時に対しては事業契約締結日の属する月の指数)と比較して3.0パーセント以上の差が生じた場合又は初回若しくは前回改定年度から累積で3.0パーセント以上の差が生じた場合に、表 6 に定める指数に基づき、協議のうえ、次年度分のサービスの対価の改定を行う。ただし、企業向けサービス価格指数の消費税増税に伴う増加分については対象外とするとともに、企業向けサービス価格指数が著しく変動した場合は、厚生労働省の毎月勤労者統計調査の結果等も考慮し、市場価格の実態に合うよう、市及び事業者の協議によるものとする。
- ・各年度の維持管理及び運営業務のサービスの対価は、次式によって表されるものとする。

$$P(t) = P_s(t) \times \text{CSPI}(t-1) / \text{CSPIs}$$

<凡例>

- P(t): t 年度(t 年4月から(t+1)年3月)のサービスの対価
- P_s(t): 事業契約書等に示す t 年度のサービスの対価
- CSPI(t-1): (t-1)年の8月の表 6 に定める企業向けサービス価格指数(Corporate Service Price Index)(光熱費の場合は、「消費者物価指数」)
- CSPIs: 前回改定年度の前年1月から12月までの表 6 に定める企業向けサービス価格指数(Corporate Service Price Index)(光熱費の場合は、「消費者物価指数」)の平均値(初回の改定時に対しては事業契約締結日の属する月の同指数)
※改定率(CSPI(t-1)/CSPIs)に小数点以下第3位未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。

- ・改定に係る協議は毎年度 1 回(11 月)とし、次年度以降のサービス対価に反映させるものとする。なお、初回の改定に係る協議は令和 9 年 11 月に行い、改定を行うこととなった場合は、令和 10 年度以降の維持管理及び運営業務のサービス対価に反映させるものとする。
- ・技術革新等により維持管理及び運営業務に係る費用が著しく縮減する場合には、市及び事業者の協議により改定するものとする。

表 6 改定に用いる指数

業務の区分	該当する業務の内訳	使用する指数
維持管理業務		「消費税の影響を除く企業向けサービス価格指数」-建物サービス(日本銀行調査統計局)
運営業務	光熱費	「消費者物価指数(全国)」-光熱・水道(総務省統計局)
	上記以外の運営業務	「消費税の影響を除く企業向けサービス価格指数」-労働者派遣サービス(日本銀行調査統計局)

※なお、消費者物価指数には消費税等を含むため、税率が改定された場合の措置については、協議によるものとする。